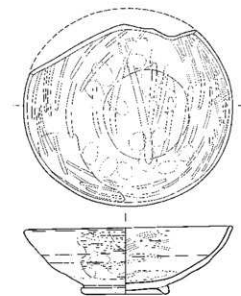


大宰府条坊跡 34

— 第252次調査 —

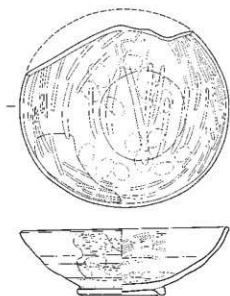


平成19年
(2007)

太宰府市教育委員会

大宰府条坊跡 34

—第252次調査—



平成19年
(2007)

太宰府市教育委員会

大宰府条坊跡 34

－第252次調査－

平成19年
(2007)

太宰府市教育委員会

序

本報告書は、共同住宅建設に伴い太宰府市五条二丁目地内（字五条）にて、平成17年度に実施した大宰府条坊跡第252次調査の報告書です。

調査地域は、鎌倉・室町時代の鋳物工場跡とされる通称鉾ノ浦遺跡の西にあり、太宰府における中世の「工場地帯」に隣接する土地の利用状況を観察する上で重要な地域にあたります。今回の調査では平安時代から鎌倉時代にかけての井戸、廃棄物処理のための土坑、掘立柱建物など当時の人々の生活を想像するに足る豊富な資料を得ることができました。中でも中国・韓国産輸入陶磁器、国産陶器類が多種出土するなど、中世の工場跡に隣接する地でありながら、生活者の階層を考える上で示唆的な資料を得ることができています。

本書が、学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用されることを心より願います。

最後になりましたが、当該調査に対しご理解頂きました皆様をはじめ、関係諸機関の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

平成19年6月
太宰府市教育委員会
教育長 關 敏治

例 言

1. 本書は、大宰府条坊跡第252次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査地点は、太宰府市五条 2丁目2475-23、2475-24に所在し、開発対象面積は704.42㎡、調査面積は240.6㎡、調査期間は平成17(2005)年11月7日から平成18(2006)年2月2日までである。
3. 発掘調査は、太宰府市教育委員会の指導のもとに株式会社玉川文化財研究所(所長 戸田哲也)が行い、現地調査は香川達郎、伊東甚吉が担当した。
4. 遺構の実測は香川、伊東が行い、遺構写真は香川が撮影した。
5. 遺構実測の基準点は、国土調査法第Ⅱ座標系を基準としている。よって報告書に示す方位はすべて座標北(G.N)を指している。なお、現地周辺の磁北は座標北から約6°30'西偏する。
6. 本書に掲載した遺構番号は以下の要領で理解される。なお、本書中では遺跡略称の「条」(大宰府条坊跡)を省略した。



7. 報告書作成業務は、株式会社玉川文化財研究所において行った。
 8. 遺物の実測は木村百合子、写真撮影は赤間和重が行った。
 9. 本書に使用した土器・陶磁器の分類は、以下の文献に準拠した。また、陶磁器分類は中島恒次郎の指導のもとに香川達郎が行った。その他の遺物に関しては巻末に掲載した。
- | | | | |
|-------|-----------|------|--------------------------------|
| 土器 | 太宰府市教育委員会 | 1983 | 『大宰府条坊跡Ⅱ』 |
| | 太宰府市教育委員会 | 1992 | 『宮ノ本遺跡Ⅱ-窯址編』 |
| | 太宰府市教育委員会 | 2002 | 『大宰府条坊跡Ⅺ-分析編』 |
| 輸入陶磁器 | 太宰府市教育委員会 | 2000 | 『大宰府条坊跡ⅩⅤ』 |
| 文字瓦 | 石松好雄・高橋 章 | 1978 | 「大宰府出土の瓦について(2)」『九州歴史資料館研究論集4』 |
10. 本書の執筆は、戸田哲也の指導のもとに香川が行った。なお調査に至る経緯については中島恒次郎による。
 11. 遺構・遺物写真については付属のCD-ROMに収納した。詳細はCD-ROM内のテキストデータ「CD-ROMをご使用にあたって」を参照のこと。
 12. 出土遺物および図面・写真等の記録類は、太宰府市教育委員会が保管し、公開・活用する予定である。

目 次

I. 調査地の位置と歴史	1
II. 調査組織	5
III. 調査に至る経緯	6
IV. 調査整理の方法	6
V. 調査の概要	10
1. 層 位	10
2. 遺 構	13
1) 井 戸	13
2) 溝	14
3) 土 坑	15
4) その他の遺構	20
3. 遺 物	21
1) 井戸出土遺物	21
2) 溝出土遺物	25
3) 土坑出土遺物	25
4) その他の遺構出土遺物	38
5) 各層出土遺物	39
VI. 小 結	41
遺構番号台帳	45
土師器計測表	47
出土遺物一覧表	50
報告書抄録	巻末

I. 調査地の位置と歴史

大宰府条坊跡は福岡平野の南東奥部にあたり、推定範囲が太宰府市から隣接する筑紫野市にまで展開する古代の都市遺跡である。地勢的には、北側を四王寺山脈、西側を背振山地の前山となる牛頭嶺山地、東側を三郡山地にそれぞれ囲まれた狭隘な二日市低地帯に立地する。低地帯は南側の筑後平野へと続くことから、両平野を繋ぐ回廊と位置付けられ、周囲の山地から流下した諸河川は、低地帯南東部にある針摺峠付近を分水嶺にして両平野を潤している。官衙「大宰府」は、古代西海道9国2島を総管し、さらに外交と国防をも司った地方最大の官衙である。周囲には天智天皇2(663)年、白村江での大敗後に、大野城が大宰府北側の四王寺山に、基肄城が背振山地の東端にそれぞれ築かれ、北西側では水城が低地帯を遮断し、博多湾からの侵入を阻む防衛線として構築されている。こうした要害の配置と自然地形によって、「大宰府」の政治中枢と都市が堅固に守られていることが、市街化の進んだ現在でも景観として読み取ることができる。

鏡山猛による大宰府条坊復原案の提示(鏡山 1963)以来、大宰府政庁および条坊城は、考古学的手法に基づく発掘調査によって資料蓄積が進められた。狭川真一は、これらの発掘資料を駆使し、国土座標に基づく新たな視点から条坊復原案を提示した(狭川 1990)。この画期を経て、近年では井上信正が追加資料も含めて政庁Ⅱ期段階の条坊関連遺構を検証し、該期の条坊一区画が約90m四方である可能性を指摘したうえ、政庁Ⅲ期条坊および鎌倉時代にも踏襲される事例が多いことを示した(井上 2001)。以来、「90m条坊案」に合致ないしは近似する事例が増加する一方、条坊右郭の鷺田川以西域にあたる条222次調査では、平安時代後期の街区が周辺の条里制と整合的に施工されていることが判明し、条坊内の設計基準はかならずしも一律でなかったことも明らかになりつつある。また、条坊北東の想定郭外では天満宮安楽寺周辺を中心に正方位に対し約6度東偏する新たな街区(斜行地割)が12世紀代に出現することが解明されている(井上・山村 2006)。現段階での大宰府政庁の廃絶時期は11世紀中頃、条坊城の街区は12世紀中頃に終焉することが想定されている。

今次調査地点は、太宰府市内五条地区に位置し、地形的には、二日市低地帯のなか、御笠川上流域左岸に形成された低位段丘Ⅱ面(磯 2001)上の標高39.5m付近に立地する。当該地点は「90m条坊案」によると推定条坊城東端の左郭7条12坊にあたり、区画内東側は『八幡宇佐宮御神領大鏡』にみえる「府中宇佐町」の比定地と考察されている(井上 2002)。南側に隣接する条156、157、158次調査では、中世の遺構群を中心に濃密な遺構分布が認められたが、このうち、条157次調査では8世紀初頭埋没の正方位を向く溝が発見され、政庁Ⅰ期当初から広範囲に条坊街区が施工されていたことを示す遺構として注目され、条158次調査では13世紀末～14世紀初頭埋没の東西大溝から、数次にわたる土師器供膳具の大量廃棄が認められたことから、鎌倉、京都と同様の饗宴のあり方が受容されていることが類推された。

南西側120mの条233次調査では、正方位基準の条坊プランとは異なり7度東偏する13世紀中頃～14世紀前半埋没の南北大溝と、これに直交関係にある平安時代後期から中世の溝、建物、柵列が発見され、天満宮安楽寺周辺に展開する斜行地割と類似する街区基準が、郭内にも成立している可能性を示唆した。

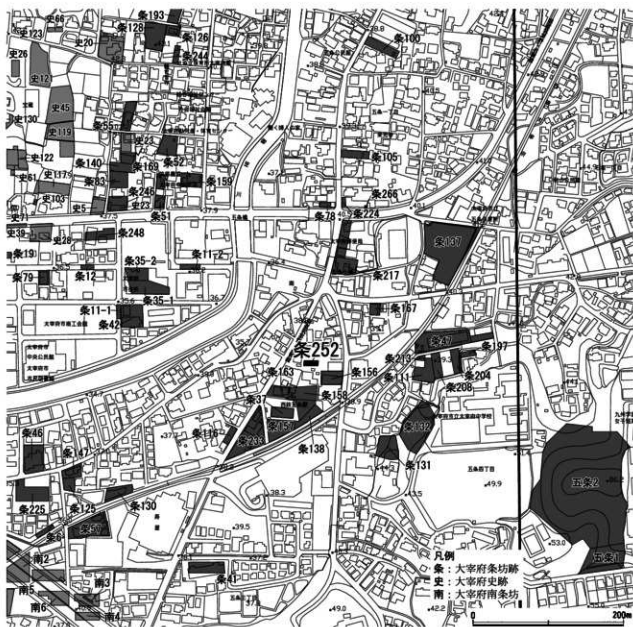
東北東200mの鉾ノ浦遺跡(条47次調査)では、鋳造土坑、踏躰と推定される長方形土坑、工作用土坑、廃棄用土坑、井戸などで構成される作業場ブロックが複数集合した、全国でも発見例の少ない中世の大規模鋳造工場が発見された。遺物は梵鐘、仏像、仏具、鍋の鉤型、鉄滓、工具類が出土し、共伴遺物と層位のあり方から、13世紀後半～14世紀前半の操業期間が推定されている。

以上の主な調査事例に加え、調査地点の南側一帯には九州探題今川了俊の居館があったとの伝承も含めて、今次調査地点周辺は「大宰府」のなかでも特に重要な地域のひとつであったといえよう。

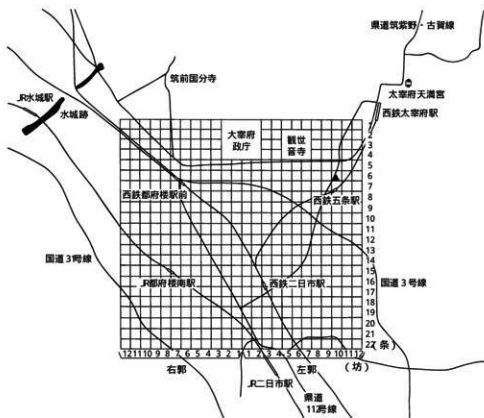


- | | | | |
|-------------|------------------|-----------|--------------------|
| 1. 大野城跡 | 11. 大宰府政庁跡 | 21. 前田遺跡 | 31. 桶田山遺跡 |
| 2. 岩屋城跡 | 12. 觀世音寺 | 22. 宮ノ本遺跡 | 32. 大宰府天満宮 (安楽寺跡) |
| 3. 陣ノ尾・妙見遺跡 | 13. 透賢印出土地 | 23. 鶴川遺跡 | 33. 溝城跡 |
| 4. 筑前國分寺跡 | 14. 大宰府糸紡跡 (破線内) | 24. フケ遺跡 | 34. 原遺跡 |
| 5. 辻遺跡 | 15. 歌畑遺跡 | 25. 尾崎遺跡 | 35. 大宰府糸紡跡第 252次調査 |
| 6. 国分松本遺跡 | 16. 般若寺跡 | 26. 脇遺跡 | |
| 7. 筑前國分尼寺跡 | 17. 市ノ上遺跡 | 27. 駒城戸遺跡 | |
| 8. 国分千足町遺跡 | 18. 神ノ前麻跡 | 28. 砂塚遺跡 | |
| 9. 御笠田印出土地 | 19. 原口遺跡 | 29. 裏人塚遺跡 | |
| 10. 水城跡 | 20. 藤原遺跡 | 30. 峯遺跡 | |

第1図 太宰府市とその周辺の遺跡 (1/30 000)



第2図 報告地周辺の調査実績(1/5 000)



第3図 調査地点概念図 (1/40000 糸方は鑛山案 調査地)

名称	次数	掲載文献
大宰府系坊跡	6	大宰府市教育委員会1981『筑前国分寺跡・跡ノ原遺跡・他、歴史時代遺跡調査報告 2編』
大宰府系坊跡	11	大宰府市教育委員会1983『大宰府系坊跡』
大宰府系坊跡	12	大宰府市教育委員会1983『大宰府系坊跡』
大宰府系坊跡	19	大宰府市教育委員会1983『大宰府系坊跡』
大宰府系坊跡	35	未報告
大宰府系坊跡	35	未報告
大宰府系坊跡	37	未報告
大宰府系坊跡	41	未報告
大宰府系坊跡	42	未報告
大宰府系坊跡	46	未報告
大宰府系坊跡	47	大宰府市教育委員会2001『大宰府系坊跡』
大宰府系坊跡	51	大宰府市教育委員会2002『大宰府系坊跡』
大宰府系坊跡	52	未報告
大宰府系坊跡	55	大宰府市教育委員会2002『大宰府系坊跡』
大宰府系坊跡	57	未報告
大宰府系坊跡	78	未報告
大宰府系坊跡	79	未報告
大宰府系坊跡	83	未報告
大宰府系坊跡	100	未報告
大宰府系坊跡	102	未報告
大宰府系坊跡	105	未報告
大宰府系坊跡	111	大宰府市教育委員会2001『大宰府系坊跡』
大宰府系坊跡	116	未報告
大宰府系坊跡	125	未報告
大宰府系坊跡	130	未報告
大宰府系坊跡	131	未報告
大宰府系坊跡	132	未報告
大宰府系坊跡	137	未報告
大宰府系坊跡	138	大宰府市教育委員会1994『大宰府系坊跡』
大宰府系坊跡	140	未報告
大宰府系坊跡	147	未報告
大宰府系坊跡	156	大宰府市教育委員会2002『大宰府系坊跡 21』
大宰府系坊跡	157	大宰府市教育委員会2002『大宰府系坊跡 21』
大宰府系坊跡	158	大宰府市教育委員会2002『大宰府系坊跡 21』
大宰府系坊跡	159	未報告
大宰府系坊跡	163	未報告
大宰府系坊跡	167	未報告

名称	次数	掲載文献
大宰府系坊跡	169	未報告
大宰府系坊跡	197	大宰府市教育委員会2001『大宰府系坊跡』
大宰府系坊跡	204	大宰府市教育委員会2001『大宰府系坊跡』
大宰府系坊跡	208	大宰府市教育委員会2001『大宰府系坊跡』
大宰府系坊跡	213	大宰府市教育委員会2001『大宰府系坊跡』
大宰府系坊跡	217	未報告
大宰府系坊跡	224	未報告
大宰府系坊跡	225	大宰府市教育委員会2004『大宰府系坊跡 26』
大宰府系坊跡	233	大宰府市教育委員会2006『大宰府系坊跡 31』
大宰府系坊跡	244	大宰府市教育委員会2006『大宰府系坊跡 30』
大宰府系坊跡	248	未報告
大宰府系坊跡	266	未報告
大宰府系史跡	5	福岡県教育委員会1971『大宰府史跡 第5次調査概要』
大宰府系史跡	20	九州歴史資料館1973『大宰府史跡、昭和4年度発掘調査報告』
大宰府系史跡	23	九州歴史資料館1974『大宰府史跡、昭和4年度発掘調査報告』
大宰府系史跡	28	九州歴史資料館1974『大宰府史跡、昭和4年度発掘調査報告』
大宰府系史跡	39	九州歴史資料館1976『大宰府史跡、昭和5年度発掘調査報告』
大宰府系史跡	45	九州歴史資料館1978『大宰府史跡、昭和5年度発掘調査報告』
大宰府系史跡	61	九州歴史資料館1979『大宰府史跡、昭和5年度発掘調査報告』
大宰府系史跡	103	九州歴史資料館1987『大宰府史跡、昭和6年度発掘調査報告』
大宰府系史跡	117	九州歴史資料館1990『大宰府史跡、平成3年度発掘調査報告』
大宰府系史跡	119	九州歴史資料館1990『大宰府史跡、平成3年度発掘調査報告』
大宰府系史跡	121	九州歴史資料館1990『大宰府史跡、平成3年度発掘調査報告』
大宰府系史跡	122	九州歴史資料館1993『大宰府史跡、平成4年度発掘調査報告』
大宰府系史跡	123	九州歴史資料館1991『大宰府史跡、平成2年度発掘調査報告』
大宰府系史跡	126	九州歴史資料館1992『大宰府史跡、平成3年度発掘調査報告』
大宰府系史跡	126	九州歴史資料館2005『観世音寺、観音殿』
大宰府系史跡	130	九州歴史資料館1993『大宰府史跡、平成4年度発掘調査報告』
福岡県教育委員会	2	福岡県教育委員会『福岡県大宰府地区埋蔵文化財調査報告書 第8巻』
福岡県教育委員会	5	福岡県教育委員会『福岡県大宰府地区埋蔵文化財調査報告書 第2巻』
福岡県教育委員会	6	福岡県教育委員会『福岡県大宰府地区埋蔵文化財調査報告書 第6巻』
福岡県教育委員会	3	福岡県教育委員会『福岡県大宰府地区埋蔵文化財調査報告書 第3巻』
福岡県教育委員会	4	福岡県教育委員会『福岡県大宰府地区埋蔵文化財調査報告書 第4巻』
五条道	1	大宰府市教育委員会1994『高辻地区遺跡群』
五条道	2	未報告

Ⅱ. 調査組織

調査組織年度別一覧

(平成17/2005年度)

総括	教育長	關 敏治
庶務	教育部長	松永 栄人
	文化財課長	木村 和美 (～6月30日)
		齋藤 廣之 (7月1日～)
	保護活用係長	久保山元信
	調査係長	永尾 彰朗
	主任主査	齋藤実貴男
	事務主査	大石 敬介
調査	主任主査	城戸 康利
		山村 信榮
		中島恒次郎【委託監理担当】
	技術主査	井上 信正
	主任技師	高橋 学
		宮崎 亮一
	技師(嘱託)	下川可容子
		柳 智子
		長 直信
		松浦 智

(平成19/2007年度)

総括	教育長	關 敏治
庶務	教育部長	松永 栄人
	文化財課長	齋藤 廣之
	保護活用係長	久保山元信
	調査係長	永尾 彰朗
	主任主査	齋藤実貴男
		吉原 慎一
調査	主任主査	城戸 康利
		山村 信榮
		中島恒次郎
	技術主査	井上 信正
	主任技師	高橋 学
		宮崎 亮一
	技師(嘱託)	柳 智子
		下高 大輔
		大塚 正樹
		端野 晋平

(株)玉川文化財研究所調査組織

(平成17/2005年度)

所長	戸田 哲也
調査研究部長	河合 英夫
主任研究員	小山 裕之
	北平 朗久
	香川 達郎【調査主担当】
研究員	伊東 甚吉

(平成19/2007年度)

所長	戸田 哲也
調査研究部長	河合 英夫
主任研究員	北平 朗久
	香川 達郎
研究員	石川 真紀

Ⅲ. 調査に至る経緯

今次調査は、太宰府市五条2丁目2475-23、2475-24にて計画された共同住宅建設に先立つ埋蔵文化財記録保存調査である。平成16年度末、株式会社真鍋建設より当該地における共同住宅建設に先立つ埋蔵文化財取り扱いの有無についての問合せが、本市教育委員会文化財課へなされた。当該地は、周知の遺跡である大宰府条坊跡内に所在し、東に隣接する地域では中世の鋳物工場跡として全国に知られている通称鉾ノ浦遺跡があり、太宰府における中世期の工房群の様態を考える上で重要な地域にあっていた。加えて南に隣接する大宰府条坊跡第158次調査区においては、土師器供膳具の多量廃棄が確認され、太宰府居住者による饗宴の風習が都同様に受容されているなど、当該地の性格を工房群のみで理解するには複雑な様態を考慮すべき地域でもあった。したがって、開発者である株式会社真鍋建設との協議を重ねた結果、共同住宅建設によって埋蔵文化財が破壊される区域について、原因者負担金による記録保存のための発掘調査を行うことで合意した。しかし、本市教委による発掘調査着手が1年以上の待ち期間を要したことから、外部調査機関への委託調査として実施することで調整を行った。

その結果、指名競争入札を行い、玉川文化財研究所への委託事業として契約を締結し、現地調査から調査報告書作成ならびに諸記録物の整備までを、本市教委が監理することを前提として実施した。監理する根拠は、文化庁次長通達（庁保記第75号 平成10年9月29日付）ならびに本市教委で定める『太宰府市における埋蔵文化財調査指針（2001年9月改正）』に基づく。

調査期間は、平成17年11月7日～平成18年2月2日であり、開発対象面積は704.42㎡、調査面積240.6㎡を測る。調査委託監理を中島恒次郎（太宰府市教育委員会）が行い、調査ならびに整理実務の担当を香川達郎（玉川文化財研究所）、副担当を伊東基吉（同研究所）が行った。

Ⅳ. 調査整理の方法

調査整理にあたっては「太宰府市における埋蔵文化財調査指針」（太宰府市教育委員会 2000年4月作成、2001年9月改正）に準拠し作業を進めていった。

現地調査では、まず遺構面第Ⅰ面までの表土を重機で除去し、発生土は場外へ運搬して調査完了まで仮置きをした。続いて遺構確認・精査に先立ち、調査区内を国土座標第Ⅱ系に則って、3m方眼に区分し発掘区を設定した。そのうち、遺構確認作業に移行したが、発見遺構には遺構番号（S-番号）を付けたうえで、1/100の略測図に発見遺構の平面形や重複関係および覆土の状況等を記録することにより、出土遺物との整合性を持たせた。遺構実測図は立面図や個別図および土層図等を1/20で適宜作成した。また1/20で遺構全体図を記録した。発見遺構は状況に応じて写真撮影を行い、遺構全体が発掘に至った時点で、調査区全体を上空から撮影した。なお、今次調査では2面の遺構面が存在したため、第Ⅰ面調査終了後に人力で遺物包含層（整地層）を掘り下げ、上面と同様の方法で第Ⅱ面の調査に当たった。

整理事業については、各遺構・層位ごとに取り上げた遺物を、器種などの属性に応じて分類し、これを台帳に記録した。この内、貿易陶磁器については『大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-』に準拠して分類し、破片数量法に基づいて出土点数（破片数）も記録した。これらは「出土遺物一覧表」として本書に掲載している。上記作業を通じて、歴史的に重要と考えられる遺物すべてを抽出し、検証資料として閲覧できる状態にするともに、実測遺物の抽出を行った。また土師器供膳具は必要に応じて実測したほか、口径の $\frac{1}{2}$ 以上残存する主な資料を計測し「土師器計測表」として本書に掲載した。

大宰府土器型式と国産陶器・貿易陶磁器編年

出現 ■増加 ■減少

2005 5訂

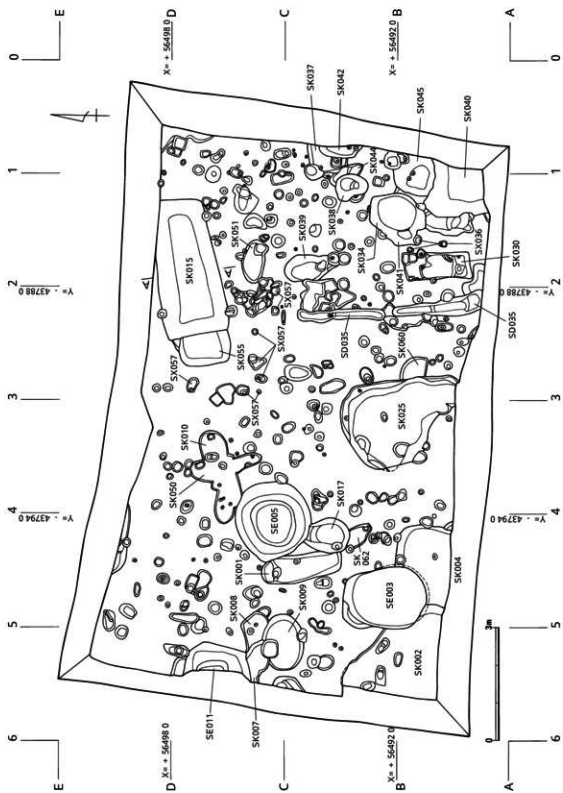
紀年銘	A D	大宰府土器形式	磁器区分	国産磁器型式 型式の上層			種別陶磁	単種陶磁器
				灰釉 雑焼	灰釉 美濃	緑釉		
800			折戸O・10			長門?・畿内	白磁 類 越州系青磁 類 長沙系青磁・黄釉 青彩・青釉	唐三彩・二彩 灰胎
825		A	井ヶ谷 1G・7B			長門・洛北・洛西・黒谷K・14?		
850		B	黒谷K・14			洛西 黒谷K・90?		
900			黒谷K・90					青磁青彩・青釉 初期イスラム陶器
925			光ヶ丘 1号					
950			折戸O・53			近江		
1000			東山H・72				越州系青磁 類 白磁立類	
1050	XI		丸石 2号 明和 2号					
1100		A	東山HG・105				白磁陶 類 1-3, Ⅱ, Ⅲ 類 Ⅳ, Ⅴ 類	初期越州系・同安系青磁 0類 越州系青磁 初期越州系青磁 類 青白磁 白磁鉢 類, 橋 類
1150	XII	B					越州系青磁陶 類 1-4, 6 Ⅳ 1類 同安系青磁陶 類 Ⅰ, Ⅱ	白磁陶 類 Ⅳ, Ⅴ 類増加 白磁陶 類 Ⅰ類
1200							越州系青磁陶 類 - a, b類	白磁陶 Ⅰ類
1230							越州系青磁 類 白磁 類	越州系青磁陶 類 - c類 白磁 類 黒釉陶器
1250								
1300								
1330							越州系青磁 類	白磁 Ⅱ, C類 安南灰胎
1350								
1400								
1500								

紀年銘資料

- A D, 927 延長 5年, 大宰府 74次 S D 205A 溝
 A D, 1091 寛治 5年, 平安京左京 4条 1坊 S E 8井戸
 A D, 1224 貞治 3年, 大宰府 33次 S D 605溝
 A D, 1304 嘉元 2年, 大宰府 109, 111次 S D 3200溝
 A D, 1330 元暦 2年, 大宰府 45次 S X 1200池
 A D, 784 延暦 3年, 長岡京 102次 A D 1020溝
 A D, 1459・1465 長祿 3・寛正 5年, 福岡市井相田 C・S G 16池
 A D, 1501 文龜元年, 大宰府 70次 S D 1805溝
 A D, 1265 文永 2年, 博多 62次 713辻溝

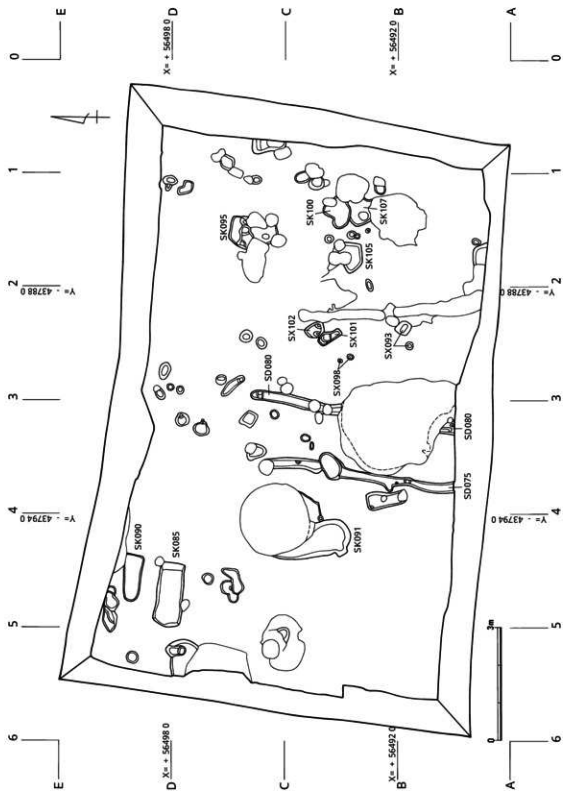
文献

- 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
 田辺昭三・吉川萬彦「平安京跡発掘調査報告書左京四条一坊」1975 平安京調査会
 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報」1975
 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報」1989
 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和54年度発掘調査概報」1978
 長岡京市埋蔵文化財センター「長岡京市埋蔵文化財調査報告書第1集」1989
 福岡市教育委員会「井相田C遺跡」福岡市埋蔵文化財調査報告書179 1989
 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
 福岡市教育委員会「博多4地 福岡市埋蔵文化財調査報告書397 1995



図中A・Aは25SK015(第1期)の土層断面図の位置を示す。

第4図 大宰府奈坊跡第25次調査第 面遺構全体図 (1/100)



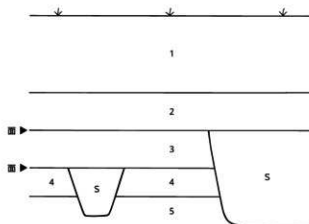
第 5 圖 大宰府奈坊跡第 252 次調査第 面遺構全体圖 (1 / 100)

V. 調査の概要

1. 層位

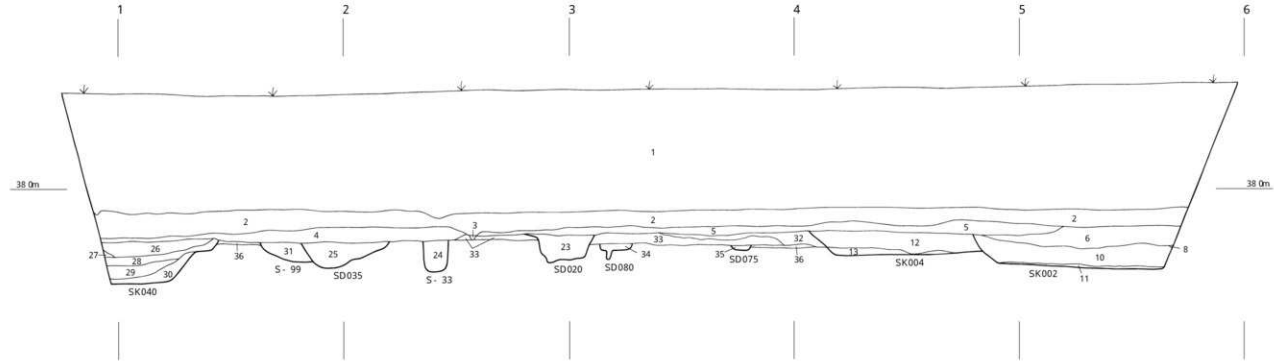
今次調査区は地形区分では、御笠川左岸の低位段丘Ⅱ面（磯 2001）上の標高39.5m付近に立地する。周辺は昭和時代末期頃に土地の嵩上げが広汎に行われており、調査区においても全域に1.8m程の厚さで黄褐色土の埋土が堆積していた（1層）。土盛りされる以前には水田が広がっていたとされ、1層の下位には水田耕作土と目される灰色粘土系の土層（2層）が30～40cmの厚さで堆積しており、この2層を剥いた面を遺構確認の第Ⅰ面とした。第Ⅰ面には複数の土層が面的に分布しており、茶色土が調査区西端部および中央部から東側にかけて比較的広範囲に広がっていたほか、西側から北側を中心に黄褐色土が分布し、北東隅部のごく一部では灰色砂礫が露出していた。これらの土層は周辺での調査事例から、茶色土（3層）、黄褐色土（4層）、灰色砂礫（5層）の層序を想定することができた。茶色土（3層）は出土遺物の様相から概ねⅣA期（平安時代前期）頃に形成された整地層と解釈でき、この土層を剥いた黄褐色土（4層）上面を遺構確認の第Ⅱ面とした。また、茶色土（3層）下で検出した第Ⅱ面遺構の覆土は、茶色土系土層が堆積する事象ではほぼ共通していた点からみて、第Ⅰ面の黄褐色土分布域で検出した多くの遺構のうち、茶色土系覆土の遺構についても第Ⅱ面の遺構と捉えることが概ね可能であった。第Ⅱ面遺構基盤層である黄褐色土（4層）と、その下位に堆積する灰色砂礫（5層）からは遺物が出土しなかったことから自然堆積層と考えられ、今次調査で確認した最下層は井戸（225 SE 005・225 SE 011）の底面で確認された花崗岩粒主体の白色砂礫層および橙白色粘土層であり、この2層が井戸機能時の湧水層と推定することができよう。層位の標高は35.7～36.0mを測る。

- 1層 黄褐色土（埋土）
- 2層 灰色粘土（耕作土）
- 3層 茶色土
- 4層 黄褐色土地山
- 5層 灰色砂礫地山

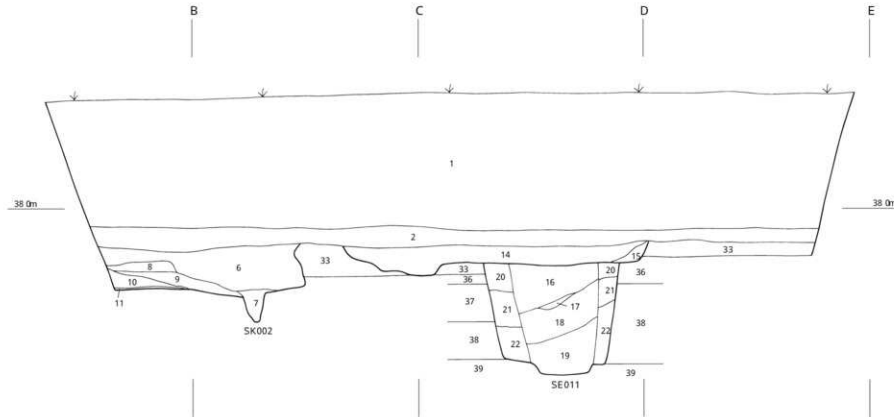


第6図 土層断面模式図

調査区南壁



調査区西壁



調査区南・東壁土層説明

- 1層 黄褐色土 (盛土)
- 2層 灰色粘土 (耕作土)
- 3層 灰色粘土 (耕作土)
- 4層 褐色土 炭化物少量含む、田床か (耕作土)
- 5層 明灰色土 (耕作土)
- 6層 暗褐色土 粘性・締まり強。 10～50mm焼土・炭化物、褐色土ブロック多量含む (SK002)
- 7層 暗褐色土 粘性・締まり強。 50mm褐色土ブロック多量含む (SK002)
- 8層 暗褐色土 粘性・締まり強。層相は6層に準ずるが、焼土・炭化物含有せず (SK002)
- 9層 褐色土 粘性・締まり強。褐色土ブロック主体層 (SK002)
- 10層 暗灰色土 粘性・締まり強。 10～20mm焼土・炭化物ブロック多量含む (SK002)
- 11層 黄灰色土 粘性・締まり強。層相は8層に準ずるが、色相暗化 (SK002)
- 12層 暗灰色土 粘性・締まり強。 0.5～1.0mm焼土・炭化物少量含む (SK004)
- 13層 暗褐色土 粘性・締まり強。 0.5～1.0mm炭化物ごく少量含む (SK004)
- 14層 暗褐色土 粘性・締まり強。 2.0mm花崗岩粒。 0.5mm焼土粒・炭化物少量含む (SE011)
- 15層 淡茶色土 粘性・締まり強 (SE011)
- 16層 暗茶色土 粘性・締まり強。 3.0mm炭化物少量。 1.0mm焼土粒少量含む (SE011)
- 17層 褐色土 焼土多量含む (SE011)
- 18層 灰色土 粘性・締まり強。 0.5mm炭化物少量含む (SE011)
- 19層 茶色土 粘性弱、締まり強。 0.5～20.0mm花崗岩多量含む (SE011)
- 20層 黄灰色土 粘性・締まり強。 (SE011)
- 21層 灰色砂 粘性・締まり強。 3.0mm褐色土ブロック多量含む (SE011)
- 22層 灰色土 粘性・締まり強。 0.2～2.0mm花崗岩粒多量含む (SE011)
- 23層 暗褐色粘土 粘性・締まり強。 1.0mm炭化物・焼土多量含む。遺物は茶色土で取り上げ (SD020)
- 24層 暗褐色土 粘性・締まり強。 0.5mm炭化物少量含む (S-33)
- 25層 暗灰色土 粘性・締まり強。 2.0mm炭化物少量含む (SD035)
- 26層 暗褐色土 粘性・締まり強。 10～20mm炭化物・焼土多量含む。遺物は灰色砂で取り上げ (SK040)
- 27層 茶色土 粘性・締まり強。 30～40mm炭化物・焼土多量含む。遺物は灰色砂で取り上げ (SK040)
- 28層 暗褐色土 層相は26層に準ずる (SK040)。遺物は灰色砂で取り上げ (SK040)
- 29層 暗褐色土 層相は26層に類似し、砂粒を多量に含む。遺物は灰色砂で取り上げ (SK040)
- 30層 灰色粘土 0.5mm炭化物少量含む (SK040)
- 31層 淡灰色土 粘性・締まり強。 0.5mm炭化物少量含む (S-99)
- 32層 暗褐色土
- 33層 茶色土
- 34層 淡茶色土 粘性・締まり強。 0.5mm炭化物・焼土少量含む。遺物は茶灰色土で取り上げ (SD080)
- 35層 淡茶色土 粘性・締まり強。 0.5mm炭化物・焼土少量含む。遺物は茶色土で取り上げ (SD075)
- 36層 黄褐色土地山 部分的に粘土化する箇所あり。
- 37層 黒色粘土地山
- 38層 灰色砂礫地山
- 39層 白色砂礫地山

第7図 調査区南壁・西壁土層断面図 (1/50)

2. 遺構

1) 井戸

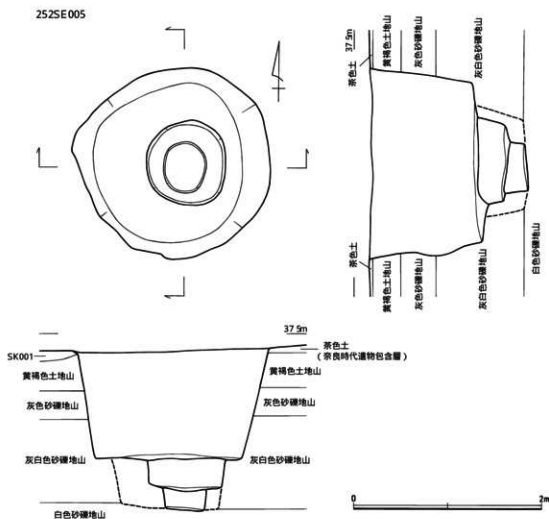
252SE003 (第4図、CD写真3)

調査区東南端部のA4区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では東側上部を252SK002に切られる。検出面での平面形は南北方向に長軸を持つ楕円形を呈し、南北約2.2m、東西約1.7mを計測する。深度は1.1mで、底面標高は約36.2mを測る。掘り方壁面は、南側から東側にかけてオーバーハングする。覆土は上層から暗茶色土、灰色粘土、褐色砂礫が堆積し、掘り方壁面付近には裏込めと目される褐色土、暗灰色砂礫が薄く堆積していた。遺物は暗茶色土、灰色粘土から出土した。井戸は完掘に至るまで湧水せず、最深部の地山層は灰色砂礫であった。

本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、D期(XV～XV期、12世紀中頃～後半)頃と推定した。

252SE005 (第4・8図、CD写真4)

調査区中央部より東側のC4区を中心に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK010などを切り、252SK001、252SK017などに切られる。検出面での平面形はほぼ円形を呈し、径は2.0mを計測する。深度は約1.7mで、底面標高は約35.7mを測る。井戸枠材および水溜枠材は遺存していない



第8図 252SE005実測図(1/40)

かった。覆土は井戸側内には上層から暗灰色土、灰色土、灰色粘土が堆積し、水溜内には暗灰色粘土が堆積、裏込めには、上層から茶色土、灰色砂が堆積していた。また、井戸構築時に掘り方壁面が大きく抉れ、そこには暗茶色土が充填されていた。水溜の裏込めには茶色砂礫が堆積し、遺物は各層から出土した。井戸は完掘に至るまで湧水せず、最深部の地山層は白色砂礫であった。

本址の構築時期および埋没時期は、出土遺物の様相から、D期（XV～XV期、12世紀中頃～後半）頃と推定した。

252SE011（第4・9図、CD写真5）

調査区北西端部のC5区に位置し、第1面で検出。西側は調査区外に延びており全容は不明。確認面での規模は南北1.8m、東西現存長0.9m、深度は約1.6mで、底面標高は35.8mを測る。井戸枠材および水溜枠材は遺存していなかった。覆土は上層に暗褐色土、淡茶色土が堆積していたが、その後、土層断面および出土遺物を検討した結果、この2層は下層とは時間的に不整合を生じていたことから、井戸最終埋没後の凹地に堆積したものと判断した。なお、遺物は本址とS-6出土のまま扱っている。覆土は井戸側内上層から暗茶色土、橙色土、灰色土、茶色砂、裏込め土に黄灰色土、灰色砂、灰色土が堆積し、遺物は橙色土以外の各層から出土した。井戸は完掘に至るまで湧水せず、最深部の地山層は橙白色粘土であった。

本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、Ⅶ期頃と推定した。



第9図 252SE011実測図(1/40)

2) 溝

252SD020（第4・10図、CD写真6）

調査区中央部南側A・B2・3区に位置する南北溝であり、第1面で検出。南側は調査区外に延び全容は不明。他遺構との重複関係では252SK025の覆土を切って構築される。溝の主軸方位はN-10°-Wを指し、検出全長2.3m、最大幅0.8m、深度は16cmを計測する。覆土は茶色土が堆積していた。

本址の埋没時期は、252SK025との重複関係から、G期（XN期～、14世紀初頭～後半）以降と推定した。

252SD035（第4図）

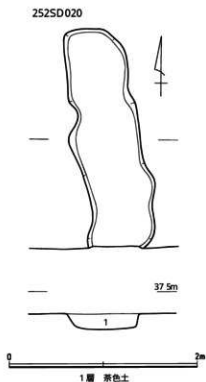
調査区の中央部やや南東側のA・B2区に位置する南北溝であり、第1面で検出。南側は調査区外に延び全容は不明。調査区南壁から約2.4m北側で一部途切れる。溝は多少蛇行するものの、主軸方位は概ねN-4°-Wを指し、検出全長4.9m、最大幅0.5m、深度は最大56cmを計測し、底面は凹凸が目立つ。覆土は上層から暗灰色土、暗褐色土、黄灰色土が堆積し、遺物は暗灰色土、暗褐色土から出土した。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、平安後期以降と推定した。

252SD075 (第5図)

調査区中央部南側のA・B3区に位置する南北溝であり、第Ⅱ面で検出。南側は調査区外に延び全容は不明。溝は多少蛇行するものの、主軸方位は概ねN-9°-Eを指す。検出全長5.2m、最大幅0.3m、深度は最大6cmを計測し、覆土は茶灰色土が堆積していた。本址は出土遺物が僅少であったがその様相ならびに本址を覆う茶色土の形成時期から、埋没時期はⅣ期頃と推定した。

252SD080 (第5図)

調査区中央部のA・B2・3区に位置する南北溝であり、第Ⅱ面で検出。他遺構との重複関係では252SK025に切られる。南側は調査区外に延び全容は不明。溝は多少蛇行するものの、主軸方位は概ねN-9°-Eを指して、西側の252SD075とほぼ平行する。検出全長5.5m、最大幅0.4m、深度は最大8cmを計測し、252SD075との芯々距離は南端で1.6m、北端で1.75mの間隔を持つ。覆土は茶灰色土が堆積していた。本址は出土遺物が僅少であったものの、その様相ならびに本址を覆う茶色土の形成時期から、埋没時期は平安時代初頭頃と推定した。



第10図 252SD020実測図(1/40)

3) 土坑

252SK001 (第4図)

調査区東側のB・C3区に位置し、第Ⅰ面で検出。他遺構との重複関係では252SE005を切って構築される。平面形は南北方向に長い長方形を呈し、長軸2.2m、短軸0.75m、深度は最大12cmを測り、主軸方位はN-9°-Wを指す。覆土は黒褐色土が堆積していた。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、D期(XN~XV期、12世紀中頃~後半)と推定した。

252SK002 (第4図、CD写真7)

調査区南西端部のA5区に位置し、第Ⅰ面で検出。他遺構との重複関係では252SE003を切って構築される。西側および南側は調査区外に延び全容は不明。平面形は不整形を呈し、北側壁面には一部オーバーハングがみられる。現存規模は東西、南北方向それぞれ2.5m、深度は最大25cmを測る。覆土は上層から暗灰色土、黒褐色土が堆積し、遺物は両層から出土した。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、F期(XVII~XIX期、13世紀中頃~14世紀初頭前後)頃と推定した。

252SK004 (第4図)

調査区南西部のA4区に位置し、第Ⅰ面で検出。他遺構との重複関係では252SE003に切られる。南側は調査区外に延び全容は不明。平面形は遺存部位から判断して方形基調と類推される。現存規模は東西2.1m、南北1.5m、深度は最大19cmを測る。覆土は上層から暗灰色土、暗褐色土が堆積し、遺物は暗褐色土から出土した。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、D期(XN~XV期、12世紀中頃~後半)頃と推定した。

252SK007 (第4図)

調査区西端部のC5区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK008、252SK009を切る。確認時平面形は楕円形を呈す。規模は東西0.6m、南北0.7m、深度は最大20cmを測る。覆土は暗褐色土が堆積する。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、D期(XV~XV期、12世紀中頃~後半)頃と推定した。

252SK008 (第4図)

調査区西端部のC4区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK009を切って構築され、252SK007に切られる。確認時平面形は円形を呈す。規模は南北0.7m、深度は最大5cmを測る。覆土は明灰色土が堆積する。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、XIII期以降と推定した。

252SK009 (第4図)

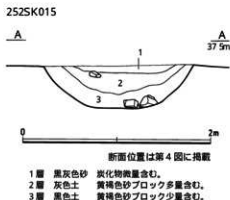
調査区西端部のC5区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK007、252SK008に切られる。平面形は遺存部位から判断して楕円形と類推される。規模は東西1.6m、南北1.1m、深度は最大15cmを測る。覆土は明褐色土が堆積する。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、XIII期頃と推定した。

252SK010 (第4図)

調査区中央部よりやや北西側のC3・4区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK050を切って構築され、252SE005に切られる。平面形は東西方向に長軸を持つ長楕円形を呈し、規模は東西2.5m、南北0.7m、深度は最大10cmを測り、主軸方位はN-74°-Eを指す。覆土は暗褐色土が堆積する。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、XIII期以降と推定した。

252SK015 (第4・11図、CD写真8・9)

調査区北東側のC1・2区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK055を切って構築され、北東側は調査区外に延びる。平面形は東西方向に長軸を持つ長方形、断面形はU字状を呈す。規模は東西3.6m、南北1.7m、深度は最大50cmを測り、主軸方位は概ねN-77°-Eを指す。覆土は上層から黒灰色砂、灰色土、黒色土が堆積する。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、D期(XV~XV期、12世紀中頃~後半)頃と推定した。



第11図 252SK015土層断面実測図(1/40)

252SK017 (第4図、CD写真10)

調査区中央部よりやや西側のB4区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SE005に切られる。平面形は南北方向にやや長い楕円形を呈し、規模は東西0.9m、南北1.1m、深度は最大32cmを測る。覆土は黒褐色土が堆積する。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、D期(XV~XV期、12世紀中頃~後半)頃と推定した。

252SK025 (第4図、CD写真11)

調査区中央部より南側のA・B2・3区に位置し、第1面で検出。他遺構との重複関係では252SK060、252SD080を切って構築され、252SD020に切られる。南側は調査区外に延びる。平面形は南北方向にやや長い不整形を呈し、規模は東西2.4m、南北現存3.1m、深度は最大32cmを測る。覆土は上層より暗褐色土、黒色土、褐色土、灰色土、明褐色土が堆積し、遺物は各層から出土した。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、G期(XIX期～、14世紀初頭～後半)頃と推定した。

252SK030 (第4図、CD写真12)

調査区南東側のA1区に位置し、第1面で検出。平面形は南北方向に長軸を持つ長方形を呈し、底面には凹凸が目立つ。規模は東西0.7m、南北1.8m、深度は最大14cmを測り、主軸方位はN-3°-Wを指す。覆土は上層から暗褐色土、灰色土が堆積し、遺物は灰色土から出土した。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、D期(XV～XVI期、12世紀中頃～後半)頃と推定した。

252SK034 (第4図、CD写真13)

調査区南東側のA1区に位置し、第1面で検出。平面形は南北にやや長い楕円形を呈すが南西側がやや歪む。規模は東西1.2m、南北1.5m、深度は最大50cmを測る。覆土は上層から茶色土、黒色土が堆積し、遺物は黒色土から主に出土した。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、F期(XVII～XIX期、13世紀中頃～14世紀初頭前後)頃と推定した。

252SK037 (第4図)

調査区南東側のB0区に位置し、第1面で検出。他遺構との重複関係では252SK042を切って構築される。平面形は方形を呈すと類推されるが、東側は調査区外に延びる。規模は南北1.0m、深度は最大10cmを測る。覆土は灰色土が堆積する。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、F期(XVII～XIX期、13世紀中頃～14世紀初頭前後)頃と推定した。

252SK038 (第4図)

調査区南東側のB1区に位置し、第1面で検出。他遺構との重複関係では252SK044を切って構築される。平面形は南北にやや長い楕円形を呈すが北西側がやや歪む。規模は東西0.75m、南北0.85m、深度は最大50cmを測る。覆土は黒色土が堆積する。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、F期(XVII～XIX期、13世紀中頃～14世紀初頭前後)頃と推定した。

252SK039 (第4図)

調査区中央部よりやや東側のB1区に位置し、第1面で検出。他遺構との重複関係では252SX049を切って構築される。平面形は南北に長い楕円形を呈す。規模は東西0.80m、南北1.3m、深度は最大40cmを測る。覆土は暗褐色土が堆積する。出土遺物は僅少であったがその様相から、本址の埋没時期は、平安時代後期頃と推定した。

252SK040 (第4図、CD写真14～16)

調査区南東端部のA1区に位置し、第1面で検出。他遺構との重複関係では252SK045を切って構築される。東側および南側は調査区外に延び、全容は不明瞭であるが、平面形は遺存部位から判断して方

形と類推される。現存規模は東西1.5m、南北1.6m、深度は最大57cmを測る。覆土は上層から灰色砂、灰色粘土が堆積し、遺物は両層から出土したが、灰色砂では土師器杯、小皿が多量に廃棄されていた。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、F期（XII～XX期、13世紀中頃～14世紀初頭前後）頃と推定した。

252SK041（第4図）

調査区南東部のA1区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK034、252SX036に切られる。遺存状態が悪いが、平面形は円形基調と類推される。規模は東西0.80m、深度は最大37cmを測る。覆土は暗灰色土が堆積する。出土遺物は僅少であったがその様相から、本址の埋没時期は、D期（XIV～XV期、12世紀中頃～後半）頃と推定した。

252SK042（第4図）

調査区東端部のB0区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK037に切られる。東側は調査区外に延び、全容は不明瞭であるが、平面形は遺存部位から判断して南北に長い楕円形と類推される。規模は南北1.2m、深度は最大30cmを測る。覆土は黒褐色土が堆積する。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、E期（XVI～XVII期、13世紀前後～前半）頃と推定した。

252SK044（第4図）

調査区東端部のB0区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK037、252SK038に切られる。遺存状態が悪いが、平面形は楕円形と類推され、規模は南北1.0m、深度は最大12cmを測る。覆土は黒褐色土が堆積する。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、平安時代後期以降と推定した。

252SK045（第4図）

調査区東端部のA1区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK034、252SK040に切られる。遺存状態が悪いが、平面形は楕円形と類推され、現存規模は東西2.0m、南北2.2cmの範囲に及び、深度は最大40cmを測る。覆土は黒灰色土が堆積する。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、F期（XII～XX期、13世紀中頃～14世紀初頭前後）頃と推定した。

252SK050（第4図）

調査区中央部よりやや北西側のC3区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK010に切られる。平面形は南北方向に長軸を持つ長楕円形を呈し、規模は東西0.6m、南北2.0m、深度は最大10cmを測り、主軸方位はN-11°-Wを指す。覆土は灰色土が堆積する。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、平安時代後期頃と推定した。

252SK051（第4図）

調査区北東側のC1区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK095を切って構築される。平面形は東西方向に長軸を持つ楕円形を呈し、規模は東西1.15m、南北0.6m、深度は最大24cmを測る。覆土は黒褐色土が堆積する。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、F期（XVII～XX期、13世紀中頃～14世紀初頭前後）頃と推定した。

252SK055 (第4図)

調査区中央部よりやや北東側のC2区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK015に切られる。遺存状態が悪いが、平面形は方形基調と類推され、規模は、南北1.4m、深度は最大22cmを測る。覆土は暗灰色土が堆積する。本址の埋没時期は、出土遺物の様相から、平安時代後期頃と推定した。

252SK060 (第4図)

調査区中央部よりやや北東側のA2区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK025に切られる。遺存状態が悪いが、平面形は楕円形と類推され、規模は、南北0.6m、深度は最大14cmを測る。覆土は暗褐色土が堆積する。本址の埋没時期は、遺物が出土しなかったことから不明瞭であるものの、252SK025との重複関係から、概ねG期(XN期～、14世紀初頭～後半)以前と推定した。

252SK062 (第4図)

調査区中央部よりやや西側のB4区に位置し、第I面で検出。他遺構との重複関係では252SK017に切られる。平面形は楕円形を呈し、規模は東西0.5m、南北0.9m、深度は最大7cmを測り、主軸方位はN-32°-Wを指す。覆土は褐色土が堆積する。本址の埋没時期は、遺物が出土しなかったことから不明瞭であるものの、252SK017との重複関係から、概ねD期(XV～XVI期、12世紀中頃～後半)以前と推定した。

252SK085 (第5図、CD写真17)

調査区北西端部のC・D4区に位置し、第II面で検出。平面形は東西に長い長方形を呈し、規模は東西1.7m、南北0.7m、深度は最大22cmを測り、主軸方位はN-81°-Wを指す。覆土は茶褐色土が堆積する。出土遺物は僅少であったがその様相から、本址の埋没時期は、概ね古代と推定した。

252SK090 (第5図)

調査区北西端部のD4区に位置し、252SK085より北側0.4mの第II面で検出。平面形は東西に長い長方形を呈すが、西側がやや歪む。規模は東西1.2m、南北0.5m、深度は最大3cmを測り、主軸方位は252SK085と指向が同一である。覆土は茶褐色土が堆積する。本址の埋没時期は、遺物が出土しなかったことから不明瞭であるものの、252SK085との位置関係から、概ね古代と推定しておく。

252SK091 (第5図)

調査区中央部よりやや西側のB4区に位置し、第II面で検出。他遺構との重複関係では252SK001、252SE005、252SK017に切られる。平面形は南北に長い楕円形を呈し、規模は東西0.95m、南北2.1m、深度は最大29cmを測り、主軸方位はN-7°-Wを指す。覆土は茶色土が堆積する。出土遺物は僅少であったがその様相から、本址の埋没時期は、概ね奈良時代後半と推定した。

252SK095 (第5図、CD写真17)

調査区北東側のC1区に位置し、第II面で検出。他遺構との重複関係では252SK051に切られる。平面形は南北にやや長い方形を呈し、底面は凹凸が目立つ。規模は東西0.9m、南北1.3m、深度は最大18cmを測る。覆土は茶色土が堆積する。出土遺物は僅少であったがその様相から、本址の埋没時期は、概

ね平安時代後期頃と推定した。

252SK100 (第5図)

調査区南東側のB1区に位置し、第Ⅱ面で検出。他遺構との重複関係では252SK107を切って構築され、252SK038に切られる。平面形は不整形を呈し、規模は東西0.8m、南北0.7m、深度は最大7cmを測る。覆土は茶色土が堆積する。出土遺物は僅少であったがその様相から、本址の埋没時期は、概ね平安時代後期頃と推定した。

252SK105 (第5図)

調査区南東側のB1区に位置し、第Ⅱ面で検出。平面形は不整形を呈し、規模は東西0.8m、南北0.7m、深度は最大9cmを測る。覆土は茶色土が堆積する。本址の埋没時期は、遺物が出土しなかったことから不明瞭であるものの、遺構面と覆土の状況から、概ね古代と推定しておく。

252SK107 (第5図)

調査区南東側のB1区に位置し、第Ⅱ面で検出。他遺構との重複関係では252SK038、252SK100に切られる。平面形は不整形を呈し、規模は東西0.7m、南北0.5m、深度は最大6cmを測る。覆土は茶色土が堆積する。本址の埋没時期は、遺物が出土しなかったことから不明瞭であるものの、遺構面と覆土の状況から、概ね古代と推定しておく。

4) その他の遺構

252SX032 (第4図)

調査区中央部南側のB3区に位置し、第Ⅰ面で検出した小穴である。覆土は上層から暗褐色土、茶色土が堆積する。他遺構との重複関係では252SK025の覆土を切って構築される。本址は精査段階で掘立柱建物や柵列を構成する遺構ではないと判断し、略測図にのみ記録した。本址の埋没時期は、252SK025との重複関係から、G期(XⅨ期～、14世紀初頭～後半)以降と推定した。

252SX036 (第4図)

調査区南東側のA1区に位置し、第Ⅰ面で検出した4穴からなる小穴群であり、一穴が252SK041を切って構築される。覆土は暗褐色土が堆積する。本址の埋没時期は、252SK041との重複関係から、D期(XⅦ～XⅤ期、12世紀中頃～後半)以降と推定した。

252SX049 (第4図)

調査区中央部よりやや東側のB1区に位置し、第Ⅰ面で検出したたまり状の遺構であり、252SK039に切られる。平面形は不整形を呈し、底面は凹凸が目立つ。規模は東西0.8m、南北1.4m、深度は最大10cmを測る。覆土は暗灰色土が堆積する。出土遺物は僅少であったがその様相から、本址の埋没時期は、平安時代後期頃と推定した。

252SX057 (第4図)

調査区北東側のB・C2・3区に位置し、第Ⅰ面で検出した8穴からなる小穴群であり、覆土は暗褐色土が堆積する。出土遺物は僅少であったがその様相から、本址の埋没時期は、XⅦ期以降と推定した。

252SX093 (第5図)

調査区中央部やや東側のA・B2区に位置し、第Ⅱ面で検出した5穴からなる小穴群であり、覆土は茶色土が堆積する。出土遺物は僅少であったがその様相、ならびに遺構面と覆土の状況から、本址の埋没時期は、概ね古代と推定しておく。

252SX101 (第5図)

調査区中央部やや東側のB2区に位置し、第Ⅱ面で検出した小穴であり、252SX102を切って構築される。覆土は茶色土が堆積する。出土遺物は僅少であったがその様相、ならびに遺構面と覆土の状況から、本址の埋没時期は、概ね古代と推定しておく。

252SX102 (第5図)

調査区中央部やや東側のB2区に位置し、第Ⅱ面で検出した小穴であり、252SX101に切られる。覆土は茶色土が堆積する。出土遺物は僅少であったがその様相、ならびに遺構面と覆土の状況から、本址の埋没時期は、概ね古代と推定しておく。

3. 遺物

1) 井戸出土遺物

252SE003暗茶色土 (第12図)

土師器

小皿a1 (土師器計測表) 口径8.2~9.2cm、器高0.95~1.2cm、底径7.0~7.6cmを測る。底部は糸切り離し。

瓦器

椀c (1) 現存高2.2cmを測る体部下半から高台の破片。体部内外面はヘラミガキが施される。高台貼付。焼成は良好。胎土は暗灰色を呈す。

土師質土器

鍋(2、3) 2は現存高3.6cm、3は現存高2.7cmを測る。いずれも口縁部破片であり、内外面はナデにより仕上げられる。2の口縁部直下内外面には一時調整時の指頭痕が観察でき、外面口縁部直下には煤が付着する。焼成良好。胎土は2が黄橙色から灰黄褐色、3が暗黄灰色を呈す。

灰釉陶器

鉢(4) 現存高5.0cmを測る口縁部破片。回転ナデによる成形ののち、緑灰色に発色する釉を内外面にハケ塗りするが、不均一に施されている。焼成良好。微細な黒色・白色砂粒を含有する胎土は灰色を呈し堅緻。

金属製品

鉄釘(5) 先端部を欠損する。現存長9.6cm、重量10.4gを測り、鍛造によって成形する。

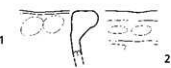
石製品

風字硯か(6) 滑石を素材とし、形状から風字硯の海と類推される資料。ノミ状工具による切削ののち、研磨が施される。海底面には使用による摩耗が観察できる。現存長4.8cm、現存幅3.2cm、高さ3.0cmを測る。

252SE003暗茶色土



1



2



3



4



5



6

252SE003灰色粘土



7

252SE005暗灰色土



8

252SE005灰色土



9



10



11



12



13

252SE005灰色粘土



14

252SE005茶色土



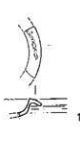
15



16



17



18

252SE011暗褐色土



19



20



21

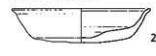


22



23

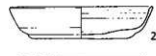
252SE011暗茶色土



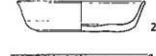
24



28



25



26



27



29



30



31

0 10cm

第12图 252SE003·005·011出土遺物実測図(1/3)

252SE003灰色粘土 (第12図)

土師器

杯 a (土師器計測表) 口径16.6cm、器高2.75cm、底径12.0cmを測る。底部は糸切り離し。

小皿a1 (土師器計測表) 口径8.6~9.6cm、器高1.0~1.2cm、底径6.0~8.0cmを測る。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢 (7) 現存高2.1cmを測る口縁部破片。内外面は回転ナデ調整。焼成は良好。堅緻な胎土は青灰色を呈すが、口縁端部は重ね焼きにより黒灰色に発色する。東播系。

252SE005暗灰色土 (第12図)

須恵質土器

こね鉢 (8) 現存高2.0cmを測る口縁部破片。内外面は回転ナデ調整。焼成は良好。堅緻な胎土は灰色を呈すが、口縁端部は重ね焼きにより黒灰色に発色する。東播系。

252SE005灰色土 (第12図)

瓦器

碗 (9) 現存高2.2cmを測る口縁部から体部の破片。器面は回転ナデののち、横位のヘラミガキが粗く施される。焼成は良好であり、胎土は暗灰色から黒灰色を呈す。

青磁

盤 (10) 現存高3.0cmを測る体部破片。器面は回転ナデののち、黄色に発色する釉を薄く内外面に施す。釉は半光沢質で細貫入を生じる。胎土は暗赤色・白色粒子を多く含む比較的軟質であり、焼成は酸化焰焼成気味で黄橙色から黄灰色を呈す。産地不明の未分類資料。

瓦類

瓦玉 (11) 径3.0~3.1cm、高さ2.1cm、重量20.4gを測る。酸化焰焼成の瓦を素材とし、凹面の布目が遺存する。打割により側面を形成し面取り状の研磨によって円柱状に成形する。

金属製品

鉄釘 (12・13) いずれも先端側を欠損する。12は現存長3.1cm、重量2.4g、13は現存長3.2cm、重量4.8gを測り、鍛造によって成形する。

252SE005灰色粘土 (第12図、CD写真18・19)

青磁

碗 (14) 現存高1.8cm、復元高台径4.6cmを測る。体部下半から底部の破片。体部は直線的に開き、高台は断面三角形に小さく削り出される。器面には暗オリーブ色に発色する釉が薄く施され、内面見込み外周部には細長い目跡が1ヵ所観察される。高台内には径0.5~1.0mm大の籾砂が付着する。胎土は堅緻・精良で微細な黒色粒子を微量含む。焼成は良好で灰黄色を呈す。越州窯系青磁の未分類資料。

252SE005茶色土 (第12図、CD写真20~22)

須恵質土器

こね鉢 (15、16) 15は現存高3.1cm、16は現存高3.5cmを測る口縁部破片。いずれも内外面は回転ナデ調整。焼成は良好。堅緻な胎土は灰色を呈すが、口縁端部は重ね焼きにより黒灰色に発色する。東播

系。

青磁

壺 (17) 復元口径5.1cm、現存高5.9cmを測る壺の口縁部から体部の資料。器面は回転ナデによって成形され、外面から内面口縁部にかけてオリーブ色に発色する釉を薄く施すが、口縁部上面は釉が拭き取られる。また、内面には釉垂れが観察される。釉は半光沢で細貫入を生じ、微細な黑色粒子を含有する胎土は堅緻で灰黄色から暗灰色を呈す。口縁部上面および内面には漆と類推される黑色タール状物質が薄く付着する。越州窯系青磁Ⅲ類系。

中国陶器

蓋 (18) 現存高1.4cmを測る破片。器面は回転ナデによって成形される。上面には茶褐色に発色する釉が薄く不均一に施される。口縁部上端面には細長い目跡が観察できる。微細な黑色粒子を含有する胎土は堅緻で薄黄褐色を呈す。

252SE011暗褐色土 (第12図)

土師器

小皿c (19) 復元口径12.0cm、復元高台径7.4cm、器高は2.1cmを測る。口縁部回転ナデ、内面見込みはナデ調整。高台貼付。焼成は良好。胎土は淡褐色から淡黄灰色を呈す。

瓦器

椀c (20) 現存高3.3cm、復元高台径6.8cmを測る体部から高台の破片。外面は横位、内面は不定方向のヘラミガキが施される。焼成は良好であり、胎土は暗灰色から明灰色に発色する。

須恵質土器

こね鉢 (21~23) 21は現存高2.7cm、22は現存高3.0cm、23は現存高2.9cmを測る口縁部破片。いずれも回転ナデ調整で胎土は堅緻。21は焼成がやや酸化焰焼成気味で部分的に褐灰色を呈す東播系の製品。22は焼成良好で青灰色を呈す。23は明灰色を呈すが口縁部端は重ね焼きにともなって灰白色に発色する。22、23は産地不明。

252SE011暗茶色土 (第12図)

土師器

杯a (24~27) いずれも底部はヘラ切り離して24・25には板状圧痕が観察される。焼成は良好。24は復元口径11.0cm、器高2.7cm、底径7.8cmを測る。25は復元口径11.4cm、器高2.5cm、復元底径2.5cmを測る。26は復元口径10.2cm、器高2.4cm、復元底径7.3cmを測る。27は復元口径11.2cm、器高2.0cm、復元底径7.4cmを測る。

杯a (土師器計測表) 口径10.6~10.8cm、器高2.1~2.3cm、底径7.2cmを測る。底部はヘラ切り離し。

椀c2 (28) 現存高3.6cm、高台径6.3cmを測る。内外面は回転ナデ。内面にはコテ当て痕が観察できる。高台貼付。焼成は良好であり、胎土は暗黄灰色から黄白色を呈す。

甕 (29) 現存高5.0cmを測る口縁部から体部上半の破片。口縁部内外面は横ナデ、体部は外面が指頭調整ののちナデ、内面が横位から斜位のヘラケズリによって成形される。胎土には白雲母を多量に含有し、外面に煤が付着する。

緑釉陶器

椀 (30) 現存高1.0cmを測る口縁部破片。器面は横位のヘラミガキののち、淡緑色に発色する光沢質の釉を施すが、剥離が目立つ。焼成は良好。胎土は黄灰色を呈す。防長産。

瓦類

文字瓦 (31) 九瓦の凸面には「平」の陽字と凹斜格子が観察される。胎土は酸化焙焼成気味であり、淡赤橙色に発色する。I - 6 類。

2) 溝出土遺物

252SD035暗褐色土 (第13図、CD 写真23~25)

その他の外国産陶磁器

壺 (1) 現存高4.6cmを測る頸部破片。内外面は回転ナデ調整され、内面には強いロクロ目が残る。外面にはへら状工具による3本一単位の整った波状沈線が2段施される。器面は暗灰色を呈し、微少な白色粒子を多く含む胎土は暗赤褐色に発色するが、断面芯部は部分的に暗灰色を呈す。朝鮮系無釉陶器の可能性が高い。

252SD075茶灰色土 (第13図)

土師器

供膳具 (2) 現存高1.6cmを測る口縁部破片。口縁部は回転ナデ、体部はナデ調整で成形される。焼成は良好。胎土は明橙色に発色する。

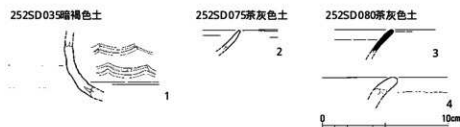
252SD080茶灰色土 (第13図)

須恵器

杯 (3) 現存高1.9cmを測る口縁部破片。回転ナデ調整で成形される。焼成はやや酸化焙焼成気味で体部内面が部分的に橙色を呈す。

土師器

甕 (4) 現存高1.85cmを測る口縁部破片。横ナデ調整により成形され、外面から断面にかけて粘土輪痕が観察される。焼成は良好で橙色を呈す。



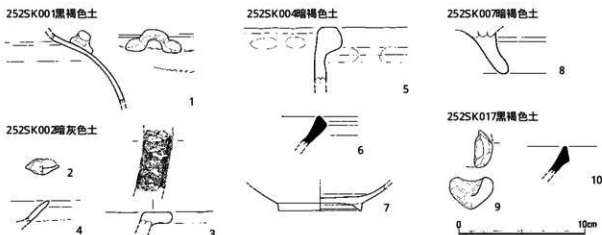
第13図 252SD035・075・080出土遺物実測図 (1/3)

3) 土坑出土遺物

252SK001黒褐色土 (第14図)

中国陶器

壺×水注 (1) 現存高5.6cmを測る肩部から体部上半の破片で、耳が1個遺存する。内外面回転ナデ調整後、外面に横耳を貼付する。外面が黄緑灰色、内面が灰褐色に発色し、失透・濁化する釉を薄く施す。褐色粒子を多く含有する胎土は堅緻。焼成は酸化焙焼成気味で淡赤褐色を呈す。B群。



第 14図 252SK001・ 002・ 004・ 007・ 017出土遺物実測図 (1 / 3)

252SK002暗灰色土 (第14図、CD写真26)

土師器

杯 a (土師器計測表) 口径13.0cm、器高2.9cm、底径8.2cmを測る。底部は糸切り離し。

小皿a1 (土師器計測表) 口径8.8~9.6cm、器高0.9~1.3cm、底径6.4~8.0cmを測る。底部は糸切り離し。

小皿 a × b (遺物計測表) 口径8.6cm、器高1.55cm、底径6.8cmを測る。底部は糸切り離し。

ミニチュア土器 (2) 復元口径2.6cm、器高1.2cmを測る。指頭によって成形される。胎土は堅緻。焼成は良好で橙褐色を呈す。

土師質土器

鍋 (3) 現存高1.2cmを測る口縁部の破片。口縁端部の上面は横ナデののち、縄を押捺する。他の部位はナデ調整が施される。

白磁

皿 (4) 現存高1.9cmを測る口縁部から体部上の破片。軸は内面から外面上位まで施され、下位は露胎。半光沢質で失透気味の軸は緑灰色から黄灰色に発色する。微細な黒色粒子を多く含有する胎土は堅緻で灰色を呈す。未分類資料。

252SK004暗褐色土 (第14図)

土師器

小皿a1 (土師器計測表) 口径8.4~9.0cm、器高1.05~1.4cm、底径6.4~8.0cmを測る。底部は糸切り離し。

土師質土器

鍋 (5) 現存高4.4cmを測る口縁部から体部上位の破片。口縁端部の上面は横ナデののち、植物繊維を押捺する、内外面ともに横ナデで仕上げられるが、内面の口縁部直下および外面口縁部直下に一次調整時の指頭痕が観察される。

須恵質土器

こね鉢 (6) 現存高2.4cmを測る口縁部破片。内外面は回転ナデ調整。焼成は良好であり、堅緻な胎土は青灰色を呈すが、口縁端部は重ね焼きにより黒灰色に発色する。東播系。

緑釉陶器

碗(7) 現存高2.0cm、復元高台径6.6cmを測る。底部は回転糸切り離し。器面は回転ナデ調整によって成形され、高台貼付ののち、高台内を除いて暗緑色から黄緑色に発色する軸を薄く施す。胎土は堅緻。焼成は良好で灰色を呈すが高台付近が部分的に褐灰色に発色する。近江産。

252SK007暗褐色土(第14図)

土師器

高台(8) 現存高3.3cmを測る。器面は回転ナデ調整で成形。接地面には摩耗が観察される。

252SK015黒灰色砂(第15図、CD写真27)

土師器

丸底杯a(土師器計測表) 口径14.6~16.6cm、器高3.15~3.95cm、底径9.0~12.0cmを測る。底部はヘラ切り離し。

杯a(土師器計測表) 口径16.4cm、器高2.65cm、底径12.0cmを測る。底部はヘラ切り離し。

小皿a×b(土師器計測表) 口径8.0cm、器高1.35cm、底径7.0cmを測る。底部は糸切り離し。

瓦器

碗c(1) 復元口径18.0cm、器高5.1cm、復元高台径5.8cmを測る。内外面回転ナデののち、ミガキが施され、外面体部下位には一次調整時の指頭痕が観察される。焼成は良好で口縁部は黒色、体部は灰白色を呈す。

碗(2) 現存高4.1cmを測る口縁部から体部の破片。内外面は回転ナデののち、ミガキが施され、外面の体部下位には一次調整時の指頭痕が観察される。焼成は良好で口縁部は黒色、体部は灰白色を呈す。

須恵質土器

こね鉢(3) 復元口径29.4cm、器高11.6cm、復元底径11.4cmを測る。内外面を回転ナデ、底部は回転糸切り後、周縁をナデ調整する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は暗青灰色を呈すが、口縁端部は重ね焼きにより黒色に発色する。内面下位は使用による摩耗と擦痕が顕著。東播磨。

白磁

碗(4) 現存高2.4cm、高台径は6.3cmを測る体部下半から高台の破片。高台形状および内面見込みの軸が環状に掻き取られている特徴から、Ⅲ類に比定されるが、通常に比べて軸掻き取り部の径が著しく小さい。白磁Ⅲ類と重ね焼きしたのであろうか。

252SK015灰色土(第15図)

土師器

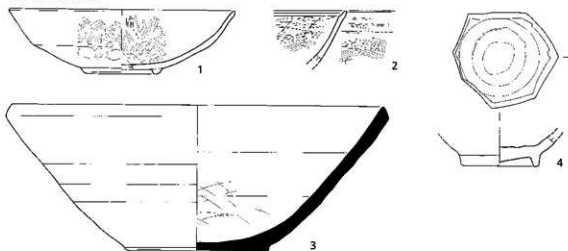
杯a(土師器計測表) 口径15.0~15.8cm、器高2.8~3.35cm、底径11.0~11.6cmを測る。底部はヘラ切り離し。

小皿a1(土師器計測表) 口径8.8~9.2cm、器高1.35~1.45cm、底径6.6~7.2cmを測る。底部はヘラ切り離し。

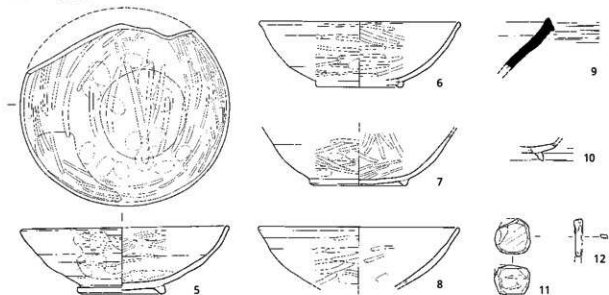
瓦器

碗c(5~7) いずれも内外面は回転ナデののち、ミガキが施され、外面体部下位には一次調整時の指頭痕が観察される。5の焼成は良好で大部分が黒灰色を呈すが、内面見込みにはやや中心からずれた位置に径6.7~7.0cmの灰白色を呈す重ね焼き痕が色相差として残る。6、7も焼成は良好で黒灰色か

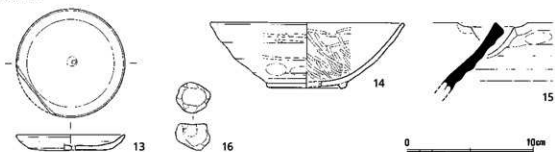
252SK015黒灰色砂



252SK015灰色土



252SK015黒色土



第 15 図 252SK015出土遺物実測図 (1 / 3)

ら灰白色を呈す。5は口径16.6cm、器高5.1～5.4cm、高台径7.0cmを測る。6は復元口径16.0cm、器高5.2cm、復元高台径7.0cmを測る。7は現存高4.2cm、復元高台径7.8cmを測る。

椀(8) 復元口径16.0cm、現存高4.6cmを測る。内外面回転ナデののち、ミガキが施され、外面体部下位には一次調整時の指頭痕が観察される。焼成は良好で灰白色を呈す。

須恵質土器

こね鉢(9) 現存高4.2cmを測る口縁部破片。内外面は回転ナデ調整。焼成は良好であり、堅緻な胎土は青灰色から明青灰色を呈すが、口縁部は重ね焼きにより暗灰色に発色する。東播系。

緑釉陶器

椀(10) 現存高1.4cmを測る体部下半から高台の破片。高台貼付後、内外面には暗緑色に発色する釉を薄く施すが、剥離が著しい。胎土は堅緻。焼成は良好で灰色を呈す。近江産。

瓦類

瓦玉(11) 径2.8cm、高さ2.3cm、重量17.8gを測る。灰白色を呈す瓦を素材とし、凹面の布目が遺存する。打割により側面を形成し面取り状の研磨によって円柱状に成形する。

金属製品

鉄釘(12) 先端側と頭部の一部を欠損する。現存長3.0cm、重量1.2gを測り、鍛造によって成形する。

252SK015黒色土(第15図)

土師器

杯a(土師器計測表) 口径12.4～15.2cm、器高2.75～2.85cm、底径11.6～12.6cmを測る。底部はヘラ切り離しと糸切り離しがある。

小皿a1(13) 口径8.6cm、器高1.3cm、底径6.5cmを測る。底部はヘラ切り離し。見込み中央には焼成後に径3.5mmの孔が穿たれる。底部には部分的に煤が付着する。

瓦器

椀c(14) 復元口径15.4cm、器高3.2cm、復元高台径6.4cmを測る。内外面回転ナデののち、ミガキが施され、外面体部下位には一次調整時の指頭痕が観察される。焼成は良好で暗灰色から灰白色を呈す。

須恵質土器

こね鉢(15) 現存高5.6cmを測る片口から体部上位の破片。内外面を回転ナデ調整後、口縁部を指頭調整して片口を作出する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は暗青灰色から青灰色を呈す。片口内面には煤が付着する。東播系。

瓦類

瓦玉(16) 径2.4～2.7cm、高さ2.1cm、重量13.2gを測る。灰白色を呈す瓦を素材とし、凹面が遺存する。打割により側面を形成し面取り状の研磨によって略円柱状に成形する。

252SK017黒褐色土(第14図)

土師器

小皿a1(土師器計測表) 口径8.4cm、器高0.85cm、底径7.0cmを測る。底部は糸切り離し。

ミニチュア土器(9) 復元口径3.3cm、器高2.5cmを測る。指頭調整により成形、ナデにより仕上げられる。焼成は良好であり、堅緻な胎土は黄褐色を呈す。

須恵質土器

こね鉢 (10) 現存高2.2cmを測る口縁部破片。内外面は回転ナデ調整。焼成は良好であり、堅緻な胎土は青灰色を呈す。東播系。

252SK025暗褐色土 (第16図、CD写真28～32)

土師器

杯a (土師器計測表) 口径12.8cm、器高2.65cm、底径7.8cmを測る。底部は糸切り離し。

小皿a1 (土師器計測表) 口径8.4cm、器高1.35cm、底径6.0cmを測る。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢 (1～4) 1は現存高3.9cmを測る片口から体部上位の破片。内外面を回転ナデ調整後、口縁部には指頭調整とナデによって片口を作成する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は暗青灰色を呈す。片口内面には煤が付着する。2～4は口縁部から体部上位の破片であり、2は現存高3.7cm、3は現存高3.4cm、4は現存高2.5cmをそれぞれ測り、いずれも回転ナデ調整で成形。1～3の焼成は良好で、胎土は灰色から灰白色を呈し、4はやや焼成不良で内面を中心に黄白色に発色する。2、4の口縁部は重ね焼きにより黒灰色に発色する。東播系。

瓦質土器

こね鉢 (5～7) いずれも口縁部から体部上位の破片。現存高は5が4.6cm、6が3.0cm、7が4.3cmをそれぞれ測る。いずれも口縁部は回転ナデ、外面は回転ナデ調整で成形されるが、5、7には一次調整時の指頭痕が観察される。内面は5、6にハケ目が施され、7は回転ナデに不定方向のナデが加わる。5、6は焼成良好で、胎土は5の断面芯部が黒色を呈し、器面が灰黄褐色を呈す。6は灰色から黒灰色を呈し、口縁端部は重ね焼により黒灰色に発色する。7はやや焼成不良で灰黄色に発色する。

羽釜 (8) 現存高2.2cmを測る口縁部から体部上位の破片で、鈿が遺存する。口縁部回転ナデ、外面は横ナデと鈿貼付に伴うナデが施され、内面は横位のハケ目調整。焼成は良好で、胎土は淡灰色から暗灰色を呈す。搬入品。

国産陶器

甕 (9、10) 9は復元口径20.8cm、現存高8.3cm、縁帯幅1.5cmを測る。口縁部は折り返し後、器面は回転ナデで成形される。焼成は良好。器面は茶褐色を呈し、外面の口縁部直下から体部にかけて暗緑色を呈す自然釉が流れる。径2.0mmの石英粒と1.0mm以下の黒色微粒子を含有する胎土は灰白色を呈す。常滑系。10は現存高3.9cmを測る肩部の破片。外面には綾杉状の叩きが施され、内面は指頭調整ののち、横ナデされる。焼成は良好で、黒色・白色微粒子を含有する胎土は灰褐色を呈す。産地不明。

白磁

破片 (11) 現存高1.8cmを測る口縁部破片。淡黄白色から淡青白色に発色する釉を内外面に薄く施す。半光沢質の釉は濁化し細貫入を生じる。堅緻な胎土は淡黄色を呈し黒色粒子を含有する。未分類資料。

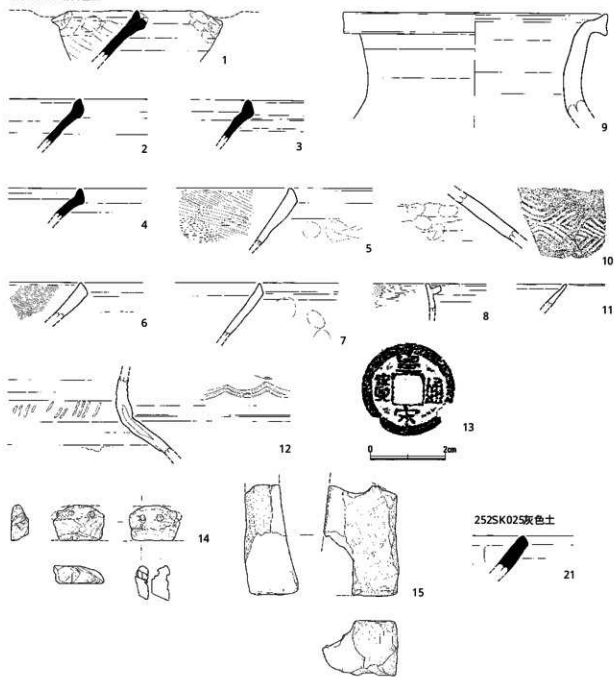
その他の外国産陶磁器

壺 (12) 現存高5.9cmを測る頸部破片。外面は回転ナデ調整ののち、ヘラ状工具による3本一単位の整った波状沈線が2段施される。内面は叩きののち、強い回転ナデにより叩き目を消す。器面は暗灰色を呈し、微少な白色粒子を多く含む胎土は暗赤褐色に発色するが、断面芯部は部分的に暗灰色を呈す。朝鮮系無釉陶器の可能性が高い。

金属製品

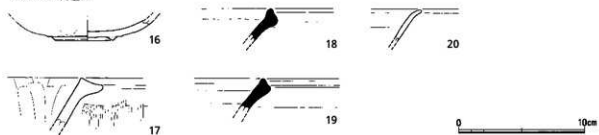
銭貨 (13) 真書で銭名を鑄込んだ皇宋通寶 (北宋、1038年初鑄) であり、天地外径2.5cm、内径1.9

252SK025暗褐色土



252SK025灰色土

252SK025暗褐色土



第 16 圖 252SK025 出土遺物實測圖 (1~ 12・ 14~ 21 - 1/3, 13 - 1/1)

cm、左右外径2.5、内径2.0cm、厚さ0.1cm、重量1.6gを測る。

石製品

滑石製用途不明品(14) 高さ2.85cm、幅4.0cm、厚さ1.4cmを測る灰色から黒灰色を呈す滑石を素材とし、ノミ状工具による切削によって成形される。孔が4ヵ所観察され、そのうち、実測図表面右端に位置する径0.5cmの孔は貫通しており、内部には棒状の鉄製品が挿入されている。中心やや左側には径0.4~0.5cmの孔が表裏両面から穿たれるが未貫通。左端の穿孔は貫通し径0.6cmに復原されるが欠損する。また、裏面に径0.2cmの孔が観察されるが未貫通である。

砥石(15) 石材は、鉱物を含有せず構成粒子が均質且つ緻密であることから、シルト岩と類推される。形状は長方形を呈していたものと推定され、上面に顕著な摩耗と擦痕が観察される。色調は上半は黒灰色を呈し、下半は火熱を受けて暗橙色に変色する。現存長8.75cm、幅4.5cm、厚さ4.3cmを測る。

252SK025褐色土(第16図、CD写真33)

土師器

小皿a1(土師器計測表) 口径8.4~8.6cm、器高1.25~1.4cm、底径5.0~5.6cmを測る。底部は糸切り離し。

小皿a×b(土師器計測表) 口径8.0cm、器高1.55cm、底径5.6cmを測る。底部は糸切り離し。

瓦器

椀c(16) 現存高1.7cm、復元高台径5.1cmを測る体部下半から高台の破片。外面体部は指頭調整ののち、回転ナデで成形され、低い高台が貼付される。内面上位は回転ナデ、下位はナデ調整される。焼成は良好。角閃石を多く含有する胎土は黒灰色に発色する。搬入品。

土師質土器

鍋(17) 現存高4.0cmを測る口縁部から体部上位の破片。口縁部横ナデ、体部外面は縦位のハケ目、内面は縦位のナデ調整で成形される。焼成は良好。白雲母を比較的多く含有する胎土は暗褐色土を呈す。

須恵質土器

こね鉢(18、19) 18は現存高2.3cm、19は現存高2.7cmを測るいずれも口縁部破片。回転ナデで成形される。焼成は良好。堅緻な胎土は暗灰色を呈すが、口縁部は重ね焼きにより黒色に発色する。東播系。

白磁

椀(20) 現存高2.6cmを測る口縁部の破片。口縁部は外反する。やや灰白色に発色する釉を内外面に薄く施すが口縁端部は剥がれている。光沢質の釉は濁化する。黒色・赤色粒子を含有するやや軟質な胎土は酸化焙焼成気味であり、淡橙色を呈す。未分類資料。

252SK025灰色土(第16図)

須恵質土器

こね鉢(21) 現存高3.1cmを測る口縁部破片。内外面は回転ナデ調整であり、内面に縦位の細沈線が1条観察できる。焼成は良好であり、堅緻な胎土は暗青灰色を呈すが、口縁部は重ね焼きにより黒色に発色する。東播系。

252SK030灰色土(第17図)

須恵質土器

こね鉢(1、2) 1は現存高5.3cm、2は現存高3.2cmを測る、いずれも口縁部から体部上位の破片。

内外面は回転ナデ調整。焼成は良好であり、堅緻な胎土は黒灰色から青灰色を呈し、1の口縁部は重ね焼きにより黒灰色に発色する。東播系。

青磁

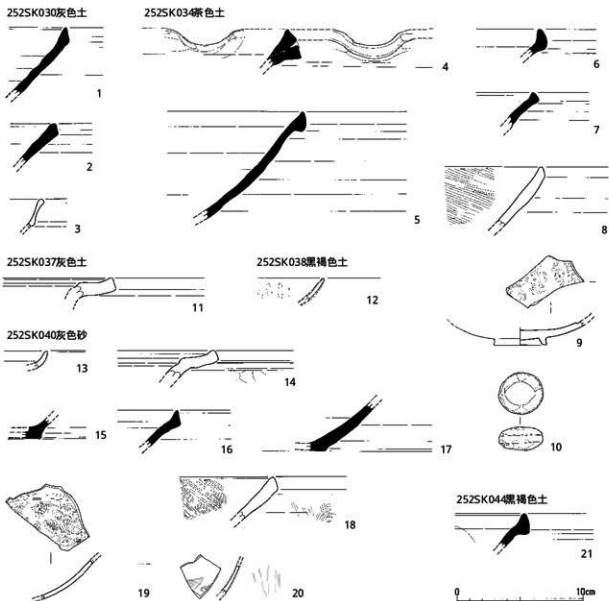
壺(3) 現存高2.3cmを測る口縁部破片。オリーブ灰色に発色する釉を内外面に薄く施す。釉は光沢質。焼成は良好。黒色・白色粒子を多く含有する堅緻な胎土は灰色を呈す。越州窯系青磁Ⅱ類系。

252SK034茶色土 (第17図)

土師器

坏a (土師器計測表) 口径13.0~13.2cm、器高2.6~2.65cm、底径8.1~9.0cmを測る。底部は糸切り離し。

小皿a1 (土師器計測表) 口径8.0~8.6cm、器高1.05~1.35cm、底径7.0cmを測る。底部は糸切り離し。



第17図 252SK030・034・037・038・040・044出土遺物実測図(1/3)

須恵質土器

こね鉢（4～7） 4は現存高2.9cmを測る片口部の破片。内外面を回転ナデ調整後、口縁部には指頭調整によって片口を作出する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は暗灰色を呈すが、口縁部は重ね焼きにより黒色に発色する。5は現存高8.7cmを測る口縁部から体部の破片。内外面は回転ナデ調整。内面下半は使用により摩耗する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は青灰色を呈すが、口縁部は重ね焼きにより黒色に発色する。6は現存高2.2cm、7は現存高3.0cmを測る口縁部破片。内外面を回転ナデ調整。堅緻な胎土は青灰色から暗青灰色を呈すが、口縁部は重ね焼きにより黒色に発色する。いずれも東播系。

互質土器

こね鉢（8） 現存高4.8cmを測る口縁部から体部上位の破片。口縁部から外面は回転ナデであるが、下端は器面が剥離し不明瞭である。内面は斜位のハケ目調整。焼成は良好。角閃石をごく微量、白色粒子を多く含有する胎土は軟質で明褐色を呈し、器面は暗黒褐色に発色する。

青白磁

椀（9） 現存高2.0cm、復元高台径4.2cmを測る体部下半から高台の破片。内面見込みには草花文様が型打ちされる。外面体部は回転ヘラケズリ、高台は削り出してあり、淡緑白色に発色する釉を内面から外面高台脇まで薄く施す。釉は光沢質で失透する。黒色微粒子を微量含有する胎土は精良・堅緻で白色を呈す。焼成は概ね良好であるが、露胎部のうち高台畳付のみ淡橙色に発色する。

互類

瓦玉（10） 胎土断面の芯部が黒灰色、器面側が橙白色を呈す瓦を素材とし、研磨によって碁石状に成形する。径3.3～3.4cm、厚さ1.9cm、重量19.6gを測る。

252SK037灰色土（第17図、CD写真34）

互質土器

鍋（11） 現存高1.7cmを測る口縁部破片。器面は回転ナデ調整。焼成は良好でなく、白色礫をやや多く含有する胎土は橙白色に発色する。

白磁

皿（CD写真34） 復元口径11.0cm、器高3.0cm、復元底径6.4cmを測る。口縁部がわずかに外反する。光沢質で比較的光感のある釉は、黄緑灰色に発色する。K-1c類。

252SK038黒色土（第17図、CD写真35）

青磁

椀（12） 現存高1.9cmを測る口縁部から体部上位の破片。内面にはノミ状工具による凹線が施される。緑灰色に発色する釉を内外面に厚く施し、貫入を生じる。焼成は良好で堅緻。黒色微粒子を含有する胎土は薄黄白色を呈す。龍泉窯系青磁Ⅲ類系の未分類資料。

252SK040灰色砂（第17図、CD写真36・37）

土師器

杯a（土師器計測表） 口径11.0～15.2cm、器高2.15～3.1cm、底径7.2～10.4cmを測る。底部は糸切り離し。

小皿a1（土師器計測表） 口径7.4～8.4cm、器高1.15～1.4cm、底径5.4～6.4cmを測る。底部は糸切り離し。

小皿 a × b (土師器計測表) 口径7.4~8.2cm、器高1.25~1.55cm、底径5.4~6.4cmを測る。底部は糸切り離し。

小皿 b (土師器計測表) 口径6.0~7.4cm、器高1.45~1.95cm、底径4.2~5.6cmを測る。底部は糸切り離し。

小皿a1 (13) 現存高1.4cmを測る口縁部から体部上位の破片。内外面は回転ナデ調整。焼成は良好で、胎土は薄灰白色を呈し粉味を帯びる。

土師質土器

鍋 (14) 現存高2.3cmを測る口縁部の破片。内外面は回転ナデ調整で仕上げられるが、口縁部直下には一次調整時の指頭痕が残る。焼成は良好。胎土は淡褐色を呈す。

須恵質土器

こね鉢 (15~17) 15は現存高1.7cmを計測する体部下端から底部の破片。底部は回転糸切りで体部内外面は回転ナデで成形されるが、内面は使用による摩耗が観察される。焼成は良好で、微細な黒色微粒子を含有する胎土は淡黄褐色を呈す。籬窯系。16は現存高3.0cmを測る口縁部破片。内外面は回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、堅緻な胎土は暗青灰色を呈すが、口縁部は重ね焼きにより黒色に発色する。17は現存高4.0cmを測る体部下位から底部の破片。底部は回転糸切り後、外周をナデ調整する。体部内外面は回転ナデ調整で、内面下位には使用による摩耗が観察される。16、17は東播系。

互質土器

こね鉢 (18) 現存高3.5cmを測る口縁部から体部上位の破片。外面は口縁部から体部上半が回転ナデ、下端は器面の摩耗が著しいがハゲ目と指頭調整がわずかに観察される。内面は斜位のハゲ目調整。焼成は良好。白色粒子を含有する胎土は軟質で明褐色を呈し、器面は外面が黄褐色、内面は黒褐色に発色する。

白磁

椀 (19) 現存高3.2cmを測る体部の破片。内面には牡丹であらうか、草花文が型打ちされる。内外面には薄緑灰色に発色する釉が薄く施される。釉は半光沢質で失透気味。焼成は良好で、微量の黒色微粒子を含有する胎土は薄灰白色を呈す。X類。

青磁

椀 (20) 現存高2.6cmを計測する体部の破片。内面には略花文が片彫で刻まれ、外面には鎬蓮弁文が削り出される。淡緑灰色に発色する釉が内外面に比較的薄めに施される。釉は半光沢質で失透気味。焼成は良好で黒色微粒子を含有する胎土は薄灰白色を呈す。龍泉窯系青磁Ⅱ類系の未分類資料。

252SK044黒褐色土 (第17図)

須恵質土器

こね鉢 (21) 現存長2.7cmを測る口縁部破片。内外面は回転ナデ調整。焼成は良好であり、堅緻な胎土は淡灰色を呈し、口縁部は重ね焼きにより黒灰色に発色する。東播系。

252SK045黒灰色土 (第18図)

土師器

坏 a (土師器計測表) 口径12.0~12.6cm、器高2.65~2.7cm、底径8.0~8.6cmを測る。底部は糸切り離し。

小皿a1 (土師器計測表) 口径8.0~8.4cm、器高1.15~1.3cm、底径5.8~6.4cmを測る。底部は糸切り離し。

小皿 b (土師器計測表) 口径8.4cm、器高2.05cm、底径5.8cmを測る。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢 (1、2) 1は現存高7.0cmを測る片口部の破片。内外面を回転ナデ調整後、口縁部には指頭調整によって片口を作出する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は黒灰色を呈す。内面には使用による摩耗・擦痕が観察される。2は現存高2.6cmを測る口縁部破片。内外面は回転ナデ調整。堅緻な胎土は青灰色を呈すが、口縁部は重ね焼きにより黒色に発色する。いずれも東播系。

瓦質土器

羽釜 (3) 現存高7.4cmを測る口縁部から体部の破片で鈔が遺存する。口縁部は回転ナデ、外面は指頭調整のち、鈔を貼付しナデ調整が施される。下位にはハケ目調整が施され、煤が付着する。内面は横位のハケ目調整。胎土は堅緻で灰黄白色を呈し、器面は暗灰色に発色する。搬入品。

白磁

椀 (4) 現存高は1.2cmを測る口縁部破片。淡黄白色に発色する釉を内外面に薄く施す。釉は光沢を失い不透明。焼成不良で胎土は灰黄白色を呈す。未分類資料。

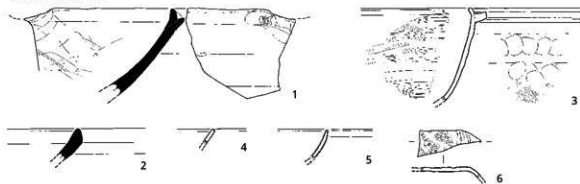
青磁

椀 (5) 現存高2.5cmを測る口縁部から体部上位の破片。淡緑灰色に発色する釉を内外面に厚く施す。釉は光沢を失い不透明。焼成は良好でなく、胎土は灰白色を呈す。龍泉窯系青磁の未分類資料。

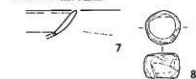
青白磁

合子蓋 (6) 現存高0.9cmを測る天井部の破片。外面には鳥を意匠した文様が型打ちされる。内外面は淡緑灰色に発色する釉を薄く施す。釉は光沢質でやや濁化。焼成はやや不良であり、黒色微粒子を

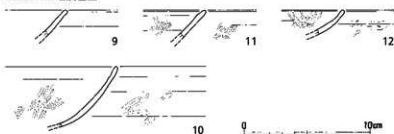
252SK045黒灰色土



252SK051黒褐色土



252SK055暗灰色土



252SK091茶色土



第 18 図 252SK045・051・055・091出土遺物実測図 (1/3)

含有する胎土は灰黄白色を呈す。

252SK051黒褐色土（第18図、CD写真38）

土師器

杯 a（土師器計測表） 口径13.8cm、器高2.65cm、底径8.4cmを測る。底部は糸切り離し。

小皿a1（土師器計測表） 口径8.6cm、器高1.35cm、底径6.2cmを測る。底部は糸切り離し。

白磁

皿（7） 現存高2.0cmを測る口縁部から体部の破片。灰黄緑色に発色する釉は内面から外面に施されるが、下位は露胎。口縁端部は拭き取られる。K-2類。

青磁

破片（CD写真38） 一辺1.5cm程の小片であり、片面に花果とみられる白象嵌が施される。暗緑灰色に発色する釉は内外面に施され、細貫入を生じる。焼成は良好。白色微粒子を含有する胎土は黄白色を呈す。象嵌高麗青磁。

瓦類

瓦玉（8） 径2.7～2.8cm、厚さ2.0cm、重量16.0gを測る。淡黄褐色を呈す瓦を素材とし、打割により側面を形成したのち、研磨によって略円柱状に成形する。

252SK055暗灰色土（第18図）

土師器

杯（9） 現存高2.2cmを測る口縁部から体部の破片。内外面は回転ナデ調整とみられるが、摩耗のため不明瞭。胎土は淡橙色を呈す。

瓦器

椀（10、11） 10は現存高4.8cm、11は現存高2.3cmを測るいずれも口縁から体部の破片。内外面回転ナデ調整ののち、疎らなミガキが施される。焼成は良好。胎土は灰白色を呈す。

小皿（12） 現存高2.0cmを測る口縁部から体部の破片。内外面は回転ナデ調整ののち、ミガキが施される。焼成は良好。胎土は黒色から暗灰色を呈す。

252SK091茶色土（第18図）

須恵器

蓋3（13） 現存高1.65cmを測る口縁から天井部の破片。内外面は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は堅緻で青灰色を呈す。

土師器

杯（14） 現存高2.05cmを測る口縁部から体部の破片。内外面は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は橙色を呈す。

甕（15） 現存高1.9cmを測る口縁部破片。内外面は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は黒褐色を呈し、器面は橙色から暗橙色に発色する。

黒色土器 A 類

鉄鉢形土器（16） 現存高3.1cmを測る口縁部から体部の破片。口縁端部は面取り状に成形される。内外面はミガキ調整。焼成は良好。微少な白雲母を含有する胎土は黒褐色を呈す。外面下半から破断面にかけて橙色を呈す付着物が観察される。

4) その他の遺構出土遺物

252SX032暗褐色土 (第19図、CD写真39・40)

青磁

碗 (1) 現存高3.7cmを測る体部下位の破片。内面にはヘラ状工具による片彫、外面にはⅢ類に類似した幅広の粗い櫛目文が施される。半光沢質で暗オリーブ色に発色する釉が内外面に薄く施される。焼成は良好。黒色微粒子を含有する胎土は明灰色を呈す。同安楽系青磁の未分類資料。

252SX032茶色土 (第19図)

土師器

小皿 a × b (土師器計測表) 口径7.4cm、器高1.4cm、底径6.4cmを測る。底部は糸切り離し。

須恵質土器

甕 (2) 現存高5.2cmを計測する口縁部から頸部の破片。口縁部は回転ナデ調整で、内面は横ナデ調整。頸部下半には叩きが施される。焼成は良好。黒色・白色微粒子を含有する胎土は青灰色を呈し、器面は黒灰色に発色する。東播系。

こね鉢 (3) 現存高2.7cmを計測する。内外面は回転ナデ調整。焼成は良好であり、堅緻な胎土は淡灰色を呈し、口縁部は重ね焼きにより黒灰色に発色する。東播系。

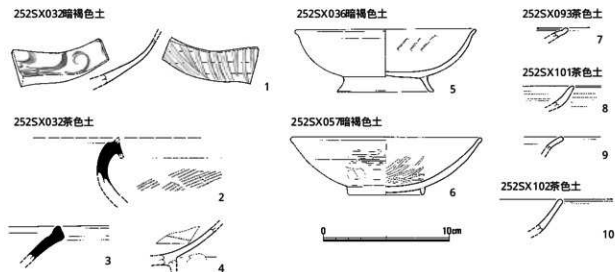
白磁

碗 (4) 現存高3.1cmを計測する体部下半から高台の破片。内面にはヘラ状工具による沈線が1条観察できる。内面から外面の高台脇にかけて灰白色に発色する釉を施す。釉は半光沢質で濁化しピンホール状の釉切れが目立ち、外面には細貫入が生じる。焼成はやや不良か。黒色粒子をやや多く含む胎土は灰白色を呈すが、高台部のみ酸化焙焼成気味で薄橙灰色に発色する。未分類資料。

252SX036暗褐色土 (第19図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表) 口径9.4~10.8cm、器高1.1~1.55cm、底径7.0~7.8cmを測る。底部はヘラ切り離し。



第19図 その他の遺構出土遺物実測図 (1/3)

碗c2(5) 復元口径14.2cm、器高5.0cm、復元高台径7.5cmを測る。体部内外面は回転ナデ調整、内面上位にはコテ当て痕が観察される。高台は貼付。焼成はやや不良で、胎土は淡橙白色を呈す。

252SX057暗褐色土(第19図)

瓦器

碗c(6) 復元口径15.0cm、器高4.6cm、復元高台径5.9cmを測る。体部内外面は回転ナデののち、内外面に疎らなミガキが施される。外面下位には一次調整時の指頭痕がわずかに認められる。焼成は良好。胎土は内面から外面上位が黒灰色に発色し、外面下位は灰白色を呈す。

252SX093茶色土(第19図)

土師器

小皿(7) 現存高0.9cmを測る口縁部破片。内外面は回転ナデ調整で、内面の口縁部に浅い凹線が観察できる。焼成は良好で胎土は黄橙色を呈す。本資料は蓋の可能性もある。

252SX101茶色土(第19図)

土師器

坏d(8) 現存高1.75cmを測る口縁部破片。口縁端部は回転ナデ、下位にはミガキaが施される。焼成は良好で、胎土は黄橙色を呈す。

供膳具(9) 現存高1.1cmを測る口縁部破片。内外面は回転ナデ調整。焼成は良好で、胎土は内面が淡橙色、外面が橙色を呈す。

252SX102茶色土(第19図)

土師器

坏d(10) 現存高2.75cmを測る口縁部から体部の破片。口縁端部は回転ナデ、器面は摩耗が著しくミガキaが外面口縁部付近にわずかに認められる。焼成は良好で、白雲母を多量に含有する胎土は橙色を呈す。

5) 各層出土遺物

灰色粘土(第20図、CD写真41)

青磁

碗(CD写真41) 現存高3.1cm、復元高台径4.5cmを測る体部下半から高台の破片。明緑色に発色し、貫入を生じる軸は厚く施され、高台脇で厚く垂れ留まる。胎土は薄灰色を呈し堅緻。龍泉窯系青磁Ⅲ-2類。

碗(1) 現存高3.5cmを測る体部下位の破片。外面には同安窯系青磁碗Ⅰ-b類に類似する細かい縦位の櫛目文を施すが内面は無文。焼成は良好。黄橙色に発色する軸は内面から外面にかけて施され、外面下位は露胎。軸は光沢質・透明で内面には微細な擦痕が観察される。黒色、白色微粒子を含有する胎土は灰色を呈す。同安窯系青磁の未分類資料。

茶色土 (第20図、CD写真42~44)

須恵器

蓋3 (2) 復元口径16.6cm、現存高3.15cmを測る。内外面回転ナデ調整で、外面天井部は回転ヘラ切り後に丁寧なナデが施される。焼成は良好。胎土は堅緻で暗灰色を呈す。

皿×壺 (3) 現存高2.0cmを計測する口縁部の破片。内外面は回転ナデ調整。焼成はあまり良好でなく、やや砂質の胎土は堅緻で黄灰白色を呈す。

土師器

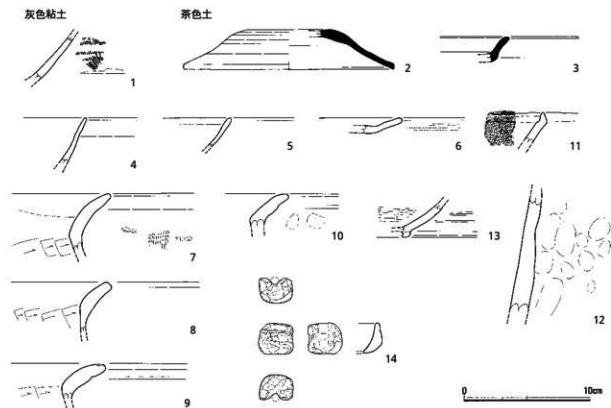
杯a (4) 現存高3.7cmを測る口縁部から体部の破片。内外面は回転ナデ調整。焼成良好。胎土は堅緻で内面は明黄橙色、外面は暗黄橙色を呈す。

杯a×坏d (5) 現存高2.35cmを測る口縁部から体部の破片。内外面は回転ナデ調整。白雲母を多量に含む胎土は、内面橙色、外面淡橙色を呈す。

皿a (6) 現存高1.2cmを測る。底部ヘラ切り離し、内外面は回転ナデ調整。内底面と体部外面にミガキaが施される。焼成良好。胎土は橙色を呈す。

甕a (7) 現存高4.8cmを測る口縁部から体部上位の破片。口縁部は回転ナデ調整。体部上位は外面が縦位のハケ目、内面が斜位のヘラケズリ調整。焼成は良好で外面は橙色、内面は暗橙色を呈す。白雲母を多量に含む胎土は橙色を呈す。内面体部には煤が付着する。

甕 (8~10) いずれも口縁部から体部上端の破片で、口縁部は回転ナデ調整。体部は外面回転ナデ、内面が斜位のヘラケズリ調整であり、10の外面には一次調整時の指頭痕がわずかに残る。焼成は良好。8、9の胎土には角閃石、白雲母が微量含まれ、黄橙色から橙色を呈す。10の胎土には白雲母が微量含



第20図 各層出土遺物実測図 (1/3)

まれ、黄橙色を呈す。現存高は 8 が 4.1cm、9 が 2.8cm、10 が 2.7cm をそれぞれ測る。

製塩土器

焼塩壺 (11、12) 11は現存高2.5cmを測る口縁部から体部上位の破片。12は9.35cmを測る体部破片。11は型成形であり、外面口縁部が横ナデ、体部はナデ調整。内面には布目痕が付く。焼成良好。胎土は内面が淡橙色、外面が暗黄褐色を呈す。12も型成形と類推され、外面には指頭調整が施される。焼成良好。白雲母を多量に含む胎土は内面が赤褐色、外面が橙色を呈す。いずれも焼塩壺 I 類。

黒色土器 A 類

碗c2 (13) 現存高2.7cmを測る体部下半から高台の破片。高台貼付。体部内外面にはミガキが施される。焼成は良好。白雲母を多量に含む胎土は、内面が黒褐色、外面が赤褐色から暗赤褐色を呈す。

石製品

滑石製小形容器 (14) 褐灰色から黒灰色を呈す滑石を素材とし、復元口径2.7cm、器高2.4cm、復元底径1.7cmを測る。ノミ状工具によって切削、成形され、口縁端部と外面に研磨が施される。底部には復元径0.6cmの孔が穿たれる。

VI. 小 結

今次調査は 2 面の遺構面からなり、検出遺構の内訳は、第 I 面では井戸 3 基、溝 2 条、土坑 23 基、たまり状遺構 2 箇所、小穴 136 穴であり、第 II 面では溝 2 条、土坑 6 基、小穴 54 穴などが検出された。

本章では、今次調査で得られた資料に基づいて成果と課題について述べることにする。

まず第 II 面では、概ね奈良時代から平安時代初頭頃に埋没した遺構で構成されていたが、これらは今次調査発見遺構全体からみると、極めて少なかったうえに出土遺物も僅少であったことから、当該期の土地利用のあり方を理解することが難しい状況であった。この事由として、当該期の人間活動が低調であったとも推測されたが、遺構空白域には深く掘り込まれた第 I 面検出遺構がそれぞれ重なってくることから、むしろ中世を中心とした後世の人間活動によって破壊が及んだ要因の方が大きいものと捉えられた。

こうしたなかで注目されるのは、調査区中央部南側に検出した平行する 2 条の溝 252 SD 075 と 252 SD 080 である。検出全長約 5 m 程度で北側が収束していたが、土地区画に強く関連すると類推できる形状を有しており、後世に攪乱 (252 SK 025 等) されて不明な部分があるものの、平安時代初頭頃埋没の両溝の間には同時期頃の遺構が分布していない事象が看取されたことから、両溝が道路側溝である可能性も指摘できる。ただし、その性格については、周辺域の状況を視野に入れて検討される問題であろう。

なお、今次調査発見遺物のなかにはごく僅かではあるが、第 II 面発見遺構時期より遡る古墳時代の遺物も出土しており、近隣調査事例での状況なども考え合わせると、当該期の生活痕跡が周辺に遺存している可能性が予想される。

次に、第 II 面遺構の大部分を覆うとともに第 I 面の遺構基盤層でもある茶色土は整地層と想定され、調査区の西端部および、中央部から東側にかけて比較的広範囲に広がっており、形成時期は層中出土遺物の様相や、土層を切る遺構の埋没年代から、概ね N A 期 (平安時代前期) 頃と捉えることができた。

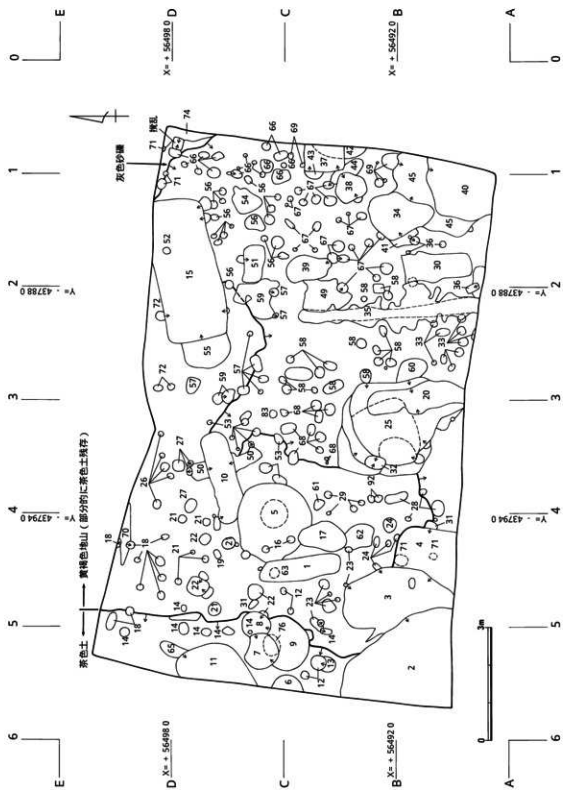
第 I 面遺構は調査区のはほぼ全域に分布しており、第 II 面に比べて遺構密度は濃密であった。これらの遺構は茶色土形成後の平安時代前期頃から構築されるが、特に D 期 (XV ~ XV 期、12 世紀中頃 ~ 後半) 以降に埋没した遺構が主体となる。今次調査地点の東北東約 200 m には、中世の大規模鋳造工場である鉾ノ浦遺跡 (太宰府市教育委員会 2001) が立地することから、生産関連遺構や遺物の発見も想定して

調査にあたったが、具体的な遺構は検出されず、遺物も埴壁が252 SE 005、252 SK 004、252 SK 051などからごく少量出土したほか、鉾澤は小穴群252 S - 66暗褐色土から検出されたのみであった（遺物一覧表参照）。近隣の条156・157・158次調査（太宰府市教育委員会 2002）においても、生産遺構は検出されておらず、遺物も埴壁・鉾澤が条157次調査でやや多いものの、総じて僅少であったことから、今次調査地点付近と鉾ノ浦遺跡との物的関連性は低いものと見なされた。

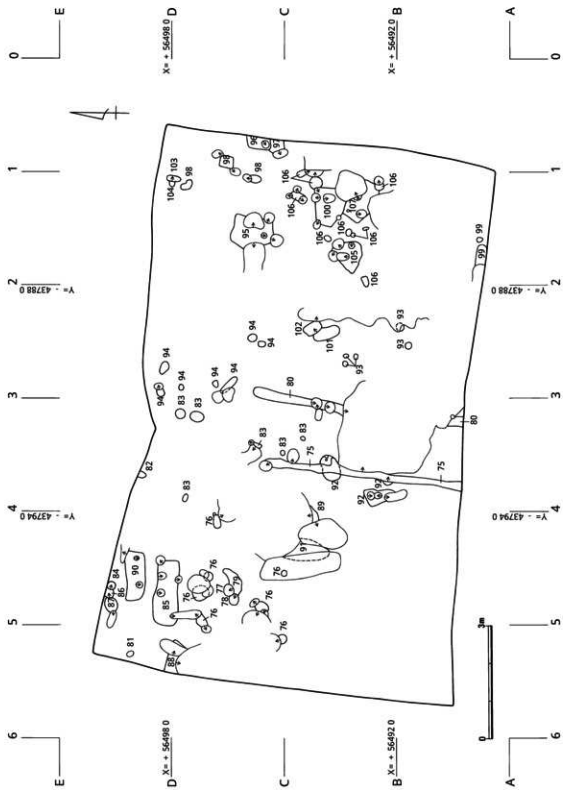
一方、今次調査で発見した多数の小穴は、他遺構との重複関係などによって規則的な配置が認められなかったものの、その一部は掘立柱建物や柵列を構成する柱穴と想像するに難くない事象であったことや、発見井戸のあり方から、生活域としての土地利用が考えられた。居住者像については、南東隅部で検出されたF期（XVII～XIX期、13世紀中頃～14世紀初頭前後）埋没の252 SK 040で土師器杯、小皿類が多量に廃棄されている状況が認められたことや、条158次調査の158 SD 001においても同様の土師器供膳具の大量廃棄とともにガラス片や瓦質土器火舎など階層性の高い出土遺物をみたこと、また、条157次調査では3間×3間以上の大規模建物が検出されていることなどに加えて、これらの調査では外国産陶磁器が質量ともに充実していた状況から、武士などの高い階層にある者が想定されるのである。

引用・参考文献

- 井上信正 2002 「Ⅵ.まとめ」『大宰府条坊跡21-第156・157・158次調査-』太宰府市教育委員会
井上信正 2001 「大宰府の街区割りと街区成立についての子察」『条里制・古代都市研究』通巻17号 条里制・古代都市研究会
井上信正・山村信榮 2006 「大宰府の条坊プラン」『第32回 古代城権官衙遺跡検討会-資料集-』古代城権官衙遺跡検討会
鏡山 猛 1968 『大宰府都城の研究』風間書房
鏡山 猛 1979 『大宰府遺跡』考古学ライブラリー4 ニュー・サイエンス社
狭川真一 1990 「大宰府条坊の復原-発掘調査成果からの試案-」『条里制研究』第6号
太宰府市教育委員会 2001 『大宰府条坊跡XVII-鉾ノ浦遺跡（大宰府条坊跡第47次調査）-』太宰府市の文化財第53集
太宰府市教育委員会 2002 『大宰府条坊跡21-第156・157・158次調査-』太宰府市の文化財第61集
太宰府市教育委員会 2005 『大宰府条坊跡27-第222・222-2次調査-』太宰府市の文化財第81集
太宰府市教育委員会 2006 『大宰府条坊跡31-第233次調査-』太宰府市の文化財第89集
磯 望 2001 「第1編 太宰府市の地形と地質」『太宰府市史 環境資料編』
太宰府市 1992 『太宰府市史 考古資料編』



第 2 圖 大宰府茶坊跡第 25 次調査第 一 面遺構配置図 (1 / 100)



第 22 圖 大宰府奈坊跡第 25 次調査第 一 面遺構配置圖 (1 / 100)

大宰府条坊跡第 252 次調査 遺構番号台帳 1

S番号	遺構番号	種別	備考	埋積土状況	古新	遺構階台合	古新	時期	地区番号
1	SK001	土坑		暗褐色土		5・63-76-91	1	D期	B・C・3
2	SK002	土坑		黒褐色土 暗灰色土		3	2	F期	A・5
3	SE003	井戸		暗灰色砂礫 褐色土 褐色砂礫 灰色粘土 暗褐色土		3	2	D期	A・4
4	SK004	土坑		暗褐色土 暗灰色土		31・71	4 3	D期	A・4
5	SE005	井戸		茶色砂礫 灰色砂 暗灰色土 茶色土 暗灰色粘土 灰色粘土 灰色土 暗灰色土		10・75-89-91	5 1・16-17	D期	C・4
6		墓土	S11 暗褐色土	暗褐色土				12c中→	B・5
7	SK007	土坑		暗褐色土		9	8 7	D期	C・5
8	SK008	土坑		明灰色土		9・22-76	8 7・14	→	C・4
9	SK009	土坑		明褐色土		76	9 8 7	D期	C・5
10	SK010	土坑		暗褐色土		50-76	10 5	→	C・3・4
11	SE011	井戸		灰色土 灰色砂 黄灰色土 茶色砂 灰色土 褐色土 暗褐色土 S 暗褐色土 S 暗褐色土 S 暗褐色土 S		88	65 11	期	C・5
12		小穴群	4穴	暗褐色土		13	12	平安後期→	B・C・4・5
13		小穴		明灰色土		13	12	平安前期→	B・5
14		小穴群	7穴	黒褐色土		8・76	14	→平安前期	B・C・4・5
15	SK015	土坑		黒褐色土 灰色土 黒灰色砂		55	15	D期 期	C・1・2
16		小穴群	4穴	暗褐色土		5	16	平安後期	C・4
17	SK017	土坑		暗褐色土		5・62-89-91	17	D期	B・4
18		小穴群	10穴	暗褐色土		70-76-85-90	18		D・4
19		小穴		暗褐色土		単独		平安後期	C・4
20	SD020	溝	南北溝	茶色土		25	20	G期→	A・B・2・3
21		小穴群	6穴	暗褐色土		85	21	中世前期	C・4
22		小穴群	2穴	茶色土		76	22	平安中期	C・4
23		小穴群	7穴	茶色土		23	3	→平安前期	B・4
24		小穴群	5穴	暗褐色土		24	3	D期	B・4
25	SK025	土坑		明褐色土 灰色土 褐色土 黒褐色土 暗褐色土		60-80	25 20・32	G期	A・B・2・3
26		小穴群	5穴	暗褐色土		単独		平安前期→	D・3
27		小穴群	3穴	暗褐色土		50	27	平安後期→	C・3
28		小穴群	4穴	暗褐色土		92	28	D期	A・3
29		小穴群	4穴	暗褐色土		92	29	平安後期	B・3
30	SK030	土坑		灰色土 暗褐色土				D期	A・1
31		小穴		暗褐色土		31	4		A・4
32	SK032	小穴		茶色土 暗褐色土		25	32	G期→	B・3
33		小穴群	10穴	暗褐色土		33	35	C期	A・2
34	SK034	土坑		黒褐色土 茶色土		41-45-107	34	F期	A・1
35	SD035	溝	南北溝	黄灰色土 暗褐色土 暗灰色土		33-58-93	35 47	平安後期→	A・B・2・3
36	SK036	小穴群	4穴	暗褐色土		41	36	D期→	A・1
37	SK037	土坑		灰色土		42-43-44	37	F期	B・0
38	SK038	土坑		黒褐色土		44-100-107	38	F期	B・1
39	SK039	土坑		暗褐色土		40	39	平安後期	B・1
40	SK040	土坑		灰色粘土 灰色砂		45	40	F期	A・1
41	SK041	土坑		暗灰色土		41	34-36	D期	A・1
42	SK042	土坑		暗褐色土		42	37	E期	B・0
43		小穴		暗褐色土		106	43 37		B・0
44	SK044	土坑		暗褐色土		44	37-38	平安後期→	B・0
45	SK045	土坑		黄灰色土		69	45 34-40	F期	A・1
46		小穴群	S 58c変更	暗褐色土					B・2
47		小穴群	S 6b変更	暗褐色土					B・1
48		小穴群	S 6d変更	暗褐色土					B・3
49	SK049	土壇		暗灰色土		35	49 39-67	平安後期	B・2
50	SK050	土坑		灰色土		50	10-27	平安後期	C・3
51	SK051	土坑		暗褐色土		95-59	51	F期	C・1
52		小穴		黒褐色土 暗褐色土		15	52	平安後期→	D・1
53		小穴群	9穴	暗褐色土		5・75-83	53	平安後期→	C・3
54		土坑		暗褐色土		単独		期→	C・1

大宰府祭坊跡第 252次調査 遺構番号台帳 2

S番号	遺構番号	種別	備考	埋積土状況	古新	遺構開切台	古新	時期	地区番号
55	SK055	土坑		暗灰色土		55 15		平安後期	C 2
56		小穴群	1穴	暗褐色土		95- 98 56		平安後期一	C 1
57	SX057	小穴群	8穴	暗褐色土		59- 80 57		期一	B・C 2・3
58		小穴群	16穴	暗褐色土		58 25		D期	B 2
59		土壇		暗灰色土		59 57		期一	C 2
60	SK060	土坑		暗褐色土		60 25		一G期	A 2
61		小穴		褐色土		单独		期一	B 3
62	SK062	土坑		褐色土		62 17- 23		一D期	B 4
63		小穴群	3穴	褐色土		63 1			B・C 4
64		小穴群	S 6に変更	暗褐色土					B 1
65		土坑		茶色土		65 11			D 5
66		小穴群	16穴	暗褐色土		98 66		中世前期	A-C 0・1
67		小穴群	2穴	暗褐色土		44- 49- 100- 105- 10 67 34		平安後期一?	B 1
68		小穴群	1穴	暗褐色土		75- 80- 92 68		期一	B 3
69		小穴群	6穴	暗褐色土		106 69 45			B 0
70		溝		黒灰色土		70 18			D 4
71		小穴群	4穴	茶色土		74 71 4			D 0・1, A 4
72		小穴群	2穴	暗褐色土					D 2
73		欠番							
74		不明遺構		暗灰色砂		74 71			C 0
75	SD075	溝		茶灰色土		92 75 53- 68		期	A・B 3
76		小穴群	7穴	茶色土		76 22		一 A期	C 4
77		小穴		茶色土		79 78 77		奈良	C 4
78		小穴		茶色土		79 78 77		平安前期一	C 4
79		小穴		茶色土		79 78 77			C 4
80	SD080	溝		茶灰色土		80 25- 68		平安初期	A・B 2・3
81		小穴		茶色土		单独			D 5
82		小穴		茶色土		单独			D 3
83		小穴群	5穴	茶色土		单独		古代	C 3・4
84		小穴		茶色土		86 84		古代	D 4
85	SK085	土坑		茶褐色土		85 18- 21		古代	C・D 4
86		小穴		茶色土		87 86 84		奈良	C・D 4
87		小穴		茶褐色土		87 18- 86			D 4
88		礎土	S 11 淡茶色土	淡茶色土					C・D 3・4
89		不明遺構		茶色土		89 5・17		古代	B 3・4
90	SK090	土坑		茶褐色土		90 70 18		古代	D 4
91	SK091	土坑		茶色土		91 5 1・17		奈良後半	B 4
92		小穴群	3穴	茶色土		92 75 28- 29- 68		奈良	B 3
93	SX093	小穴群	5穴	茶色土		93 35			A・B 2
94		小穴群	7穴	茶色土		94 57		中世前期?	C・D 2
95	SK095	土坑		茶色土		95 51- 56		平安後期	C 1
96		土坑		茶色土		97 96 66		古代前期	C 0
97		小穴		茶色土		97 96		古代	C 0
98		小穴群	3穴	茶色土		98 66		古代	C・D 0・1
99		小穴	2穴	茶色土		99 36		古代	A 1
100	SK100	土坑		茶色土		107 100 38- 67		平安後期	B 1
101	SX101	小穴		茶色土		101 102		古代	B 2
102	SX102	小穴		茶色土		101 102		古代	B 2
103		小穴		茶色土		104 103		古代?	C・D 1
104		小穴		茶色土		104 103			C・D 1
105	SK105	土坑		茶色土		105 67		古代	B 1
106		小穴群	9穴	茶色土		106 69			B 1
107	SK107	土坑		茶色土		107 100 38- 67		古代	B 1

大宰府条坊跡第 252次調査 土師器計測表 1

S - 2 赭灰色土

A : 内底ノズ B : 板状圧痕 : 埋厚値 * : 残存高

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	環 a	M-001	130	29	82	イト				
	小皿 a1	M-004	88	09	80	イト				
	小皿 a1	M-002	96	13	64	イト				
	小皿 a b	M-003	86	155	68	イト				

S - 3 赭褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	小皿 a1	M-003	82	095	70	イト				
	小皿 a1	M-002	86	105	70	イト				
	小皿 a1	M-001	92	12	76	イト				

S - 3 灰色粘土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	環 a	M-001	166	275	120	イト				
	小皿 a1	M-004	86	115	68	イト				
	小皿 a1	M-005	90	10	74	イト				
	小皿 a1	M-003	90	115	60	イト				
	小皿 a1	M-002	96	12	80	イト				

S - 4 赭褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	小皿 a1	M-003	84	14	70	イト				
	小皿 a1	M-001	86	105	64	イト				
	小皿 a1	M-002	90	115	80	イト				

S - 11 赭褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	環 a	M-001	106	21	72	ヘア				
	環 a	M-002	108	23	72	ヘア				

S - 15 黒灰色砂

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	丸底環 a	M-003	146	335	110	ヘア				
	丸底環 a	M-004	158	315	90	ヘア				
	丸底環 a	M-002	166	395	120	ヘア				
	環 a	M-001	164	265	120	ヘア				
	小皿 a b	M-005	80	135	70	イト				

S - 15 灰色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	環 a	M-002	150	335	110	ヘア				
	環 a	M-001	158	28	116	ヘア				
	小皿 a1	M-003	88	145	66	ヘア				
	小皿 a1	M-004	92	135	72	ヘア				

S - 15 黒色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	環 a	M-003	124	28	118	イト				
	環 a	M-001	148	285	126	ヘア				
	環 a	M-002	152	275	116	イト				

S - 17 赭褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	小皿 a1	M-001	84	085	70	イト				

S - 25 赭褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	環 a	M-001	128	265	78	イト				
	小皿 a1	M-002	84	135	60	イト				

大宰府条坊跡第 252次調査 土師器計測表 2

S - 25 褐色土

A : 内底ナズ B : 板状圧痕 : 埋厚種 * : 埋存高

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	小皿 a1	M-003	84	125	56	イト		-		
	小皿 a1	M-002	86	14	50	イト				
	小皿 a b	M-001	80	155	56	イト				

S - 32 赤色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	小皿 a b	M-001	74	14	64	イト				

S - 34 赤色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	杯 a	M-002	130	26	81	イト				
	杯 a	M-001	132	265	90	イト				
	小皿 a1	M-004	80	105	70	イト				
	小皿 a1	M-003	86	135	70	イト				

S - 36 緑褐色土

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	小皿 a1	M-003	94	145	70	ヘラ				
	小皿 a1	M-001	106	155	72	ヘラ				
	小皿 a1	M-002	108	11	78	ヘラ				

S - 40 灰色砂

種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	A	B	備	考
土師器	杯 a	M-038	110	255	80	イト				
	杯 a	M-001	116	265	80	イト				
	杯 a	M-041	118	235	88	イト				
	杯 a	M-012	118	265	80	イト				
	杯 a	M-040	120	215	88	イト				
	杯 a	M-003	120	225	80	イト				
	杯 a	M-029	120	245	82	イト				
	杯 a	M-027	120	265	84	イト				
	杯 a	M-043	120	265	80	イト				
	杯 a	M-036	120	255	90	イト				
	杯 a	M-045	120	265	80	イト				
	杯 a	M-031	120	29	72	イト				
	杯 a	M-028	122	26	84	イト				
	杯 a	M-008	122	265	84	イト				
	杯 a	M-019	122	275	80	イト				
	杯 a	M-006	122	285	82	イト				
	杯 a	M-002	122	31	84	イト				
	杯 a	M-014	124	245	88	イト				
	杯 a	M-023	124	255	82	イト				
	杯 a	M-015	124	255	90	イト				
	杯 a	M-034	124	255	96	イト				
	杯 a	M-022	124	26	88	イト				
	杯 a	M-021	124	265	80	イト				
	杯 a	M-033	124	265	80	イト				
	杯 a	M-024	124	265	82	イト				
	杯 a	M-013	124	275	86	イト				
	杯 a	M-004	124	295	86	イト				
	杯 a	M-018	124	295	82	イト				
	杯 a	M-009	126	24	88	イト				
	杯 a	M-039	126	245	86	イト				
	杯 a	M-044	126	245	88	イト				

大宰府条坊跡第 252次調査 土師器計測表 3

A : 内底ナブ B : 板状圧痕 : 埋厚値 * : 残存高

種 別	器 種	遺物番号	口 径	器 高	底 径	底部処理	A	B	備 考
土師器	環 a	M-025	126	245	88	イト			
	環 a	M-035	126	245	92	イト			
	環 a	M-032	126	25	80	イト			
	環 a	M-042	126	26	84	イト			
	環 a	M-017	126	265	86	イト			
	環 a	M-011	126	29	88	イト			
	環 a	M-020	128	265	80	イト			
	環 a	M-037	128	265	88	イト			
	環 a	M-010	128	265	90	イト			
	環 a	M-030	130	24	88	イト			
	環 a	M-026	130	245	88	イト			
	環 a	M-016	130	255	90	イト			
	環 a	M-007	130	275	80	イト			
	環 a	M-005	152	305	104	イト			
	小皿 a1	M-046	74	12	54	イト			
	小皿 a1	M-056	76	12	60	イト			
	小皿 a1	M-051	76	125	58	イト			
	小皿 a1	M-052	78	115	58	イト			
	小皿 a1	M-054	78	13	56	イト			
	小皿 a1	M-048	80	12	58	イト			
	小皿 a1	M-055	84	14	64	イト			
	小皿 a b	M-053	74	125	54	イト			
	小皿 a b	M-047	80	155	60	イト			
	小皿 a b	M-050	82	155	60	イト			
	小皿 a b	M-049	82	155	64	イト			
	小皿 b	M-063	60	175	42	イト			
	小皿 b	M-065	64	16	44	イト			
	小皿 b	M-064	66	17	48	イト			
	小皿 b	M-058	68	145	48	イト			
	小皿 b	M-066	68	195	50	イト			
	小皿 b	M-057	72	165	50	イト			
	小皿 b	M-062	72	155	56	イト			
	小皿 b	M-059	72	165	50	イト			
	小皿 b	M-061	72	175	56	イト			
	小皿 b	M-060	74	165	56	イト			

S - 45 黒灰色土

種 別	器 種	遺物番号	口 径	器 高	底 径	底部処理	A	B	備 考
土師器	環 a	M-001	120	265	80	イト			
	環 a	M-002	126	27	86	イト			
	小皿 a1	M-003	80	13	64	イト			
	小皿 a1	M-005	82	115	60	イト			
	小皿 a1	M-004	84	125	58	イト			
	小皿 b	M-006	84	205	58	イト			

S - 51 黒褐色土

種 別	器 種	遺物番号	口 径	器 高	底 径	底部処理	A	B	備 考
土師器	環 a	M-001	138	265	84	イト			
	小皿 a1	M-002	86	135	62	イト			

大宰府奈坊跡第 252 次調査 出土遺物一覧表 1

S-1 黒褐色土

須恵器	環 坏身 古墳時代、環
土師器	柄c 环a イト、皿a、小皿a イト、環a
瓦	破片
龍泉系青磁	柄：-2 1
同安系青磁	皿：破片 1
青磁 未分類	破片 1
瓦	平瓦 樋目叩
須恵質土器	環
灰釉陶器	破片 産地不明 1
白磁	柄：1、-4 -1-3 1、破片 2 皿：破片 1
中国陶器	甕、甕蓋 水注B群① 他器種：破片B群 1

S-2 緑灰色土

須恵器	環、环c、環
土師器	柄c 环a イト、小皿a イト、小皿a b イト、蓋c ミニチュア土器、甕
黒色土器 A	供膳具
瓦	柄c
龍泉系青磁	柄：-2 1、-3a 1、-4 2、-b 1、破片 1 皿：-b 4
同安系青磁	皿：破片 2
青磁 未分類	破片 1、甕 1
石製品	滑石製石鏡
土師質土器	鉢、鉢
龍泉系陶器	大甕
白磁	柄：1、-2 -4 1、-4 -1-3 1、破片 1 皿：2、破片 未分類 1 甕他：破片 3
中国陶器	他器種：A-2群 1、甕 -b 1

S-2 黒褐色土

須恵器	環
土師器	小皿a イト
瓦	柄c
同安系青磁	皿：破片 1
白磁	柄：1

S-3 緑褐色土

須恵器	环c 1 环c 3 蓋、環
土師器	柄c 环a イト>へラ、小皿a イト>へラ、供膳具 油燈、把手
瓦	柄c
龍泉系青磁	柄：-2 1、-3 1 皿：破片 1
同安系青磁	柄：-1b 17、7、破片 5
瓦	丸瓦 格子叩、平瓦 格子叩
石製品	滑石製數字鏡か、滑石製品、刺片 黒曜石
土師質土器	鉢
須恵質土器	柄、こね鉢
灰釉陶器	鉢、鉢
白磁	柄：3、5、V 2、-1 -2 1、-4 2、 -4 -1-3 9、4、破片 7 皿：-1a 1、1、1 甕他：破片 華南系 20、破片 広東系 1、甕 系 1
中国陶器	他器種：破片D群 1
金属製品	鉄釘
土製品	炒釜

S-3 灰色粘土

須恵器	環
土師器	环a イト、小皿a イト、皿a 奈良時代
瓦	柄
同安系青磁	柄：-1a 1、-1b 5、破片 3 他器種：破片 1
石製品	滑石製品
須恵質土器	こね鉢 東播系
白磁	柄：-4 -1-3 1、-2 1

S-4 緑褐色土

須恵器	坏蓋 古墳時代、環
土師器	柄c 环a イト、小皿a イト
瓦	柄c
龍泉系青磁	柄：-2 1

同安系青磁	柄：-1b 5、2、破片 4
瓦	平瓦 格子叩
石製品	磁石
土師質土器	鉢
須恵質土器	こね鉢 東播系
緑釉陶器	柄 近江 1
白磁	柄：-4 -1-3 1、破片 華南系 5 皿：-1 2

S-5 緑灰色土

須恵器	环c、甕 f d、環
土師器	柄c 环a イト、小皿a イト
瓦	柄
龍泉系青磁	皿：破片 2 他器種：破片 1
同安系青磁	柄：-1b 2
瓦	平瓦
石製品	滑石破片
土師質土器	鉢
須恵質土器	こね鉢 東播系
白磁	柄：1、3、-a 1、-1a 1、1、-1a 1、-4 -1-3 1、破片 2 甕他：破片 華南系 1、破片 広東系 1
中国陶器	他器種：破片B群 1、破片 1
土製品	炒釜

S-5 灰色土

須恵器	環
土師器	环a イト、小皿a イト、把手
瓦	柄c
龍泉系青磁	皿：破片 1
同安系青磁	柄：-1b 2、1 皿：破片 2
青磁 未分類	切跡龍泉・同安系青磁0類 1、鉢 1
瓦	丸瓦、瓦玉
石製品	滑石製品
土師質土器	鉢
白磁	柄：2、-1 1、-4 1、-4 -1-3 3、 皿：1 破片：1
中国陶器	甕：1
金属製品	鉄釘

S-5 灰色粘土

土師器	环 イト
瓦	柄
龍泉系青磁	皿 未分類 1
白磁	柄：-4 -1-3 1

S-5 緑灰色粘土

須恵器	環
土師器	环a イト、小皿a イト
石製品	滑石破片

S-5 茶色土

須恵器	環
土師器	柄c 丸底环、环a イト、小皿a イト、環a 角閃石含有、把手
瓦	柄
龍泉系青磁	甕：系 津付甕
龍泉系青磁	皿：破片 1
同安系青磁	柄：-1c 1
瓦	丸瓦 格子叩
土師質土器	鉢
須恵質土器	こね鉢 東播系
灰釉陶器	甕 1
白磁	柄：-1 -2 3、-4 -1-3 4、1、1、 破片 華南系 9、破片 広東系 1 皿：1
中国陶器	他器種：甕 1
土製品	炒釜

S-5 緑褐色土

須恵器	破片
土師器	环a へラ
中国陶器	他器種：甕 -1 1

大宰府奈坊跡第 252次調査 出土遺物一覧表 2

S-5 灰白色

土 師 器	供膳具 イト
瓦 類	椀
白 磁	碗: -4c 1
中国陶器	磁; 磁片 1

S-5 茶色砂織

土 師 器	环a
同安原系青磁	碗: -2a 1
白 磁	碗: 1

S-6 暗褐色土

清 惠 器	椀
土 師 器	椀c 供膳具 ヘラ
黒色土器 A	磁片

S-7 暗褐色土

土 師 器	椀c 丸底环、小皿 a2 高台
瓦 類	磁片
同安原系青磁	椀: -1c 1
土師質土器	鉢
白 磁	碗; 磁片 華南系 1
中国陶器	他器種; 磁片B群 1
土 製 品	炒麦

S-8 黄灰色土

土 師 器	椀c 环a イト
-------	----------

S-9 暗褐色土

清 惠 器	椀、环c
土 師 器	椀c 小皿 a2 供膳具 ヘラ、イト、煮炊具
黒色土器 A	供膳具
瓦 類	磁片
瓦 類	丸瓦、平瓦 樋目叩
石 製 品	滑石製石鍋A群
白 磁	碗; 磁片 1
土 製 品	炒麦

S-10 暗褐色土

土 師 器	环a イト、小皿 aイト、煮炊具
瓦 類	平瓦 樋目叩
白 磁	甕地; 磁片 1

S-11 暗褐色土

清 惠 器	环c、椀
土 師 器	椀c 油煙、环a ヘラ、小皿c、供膳具 ヘラ、魚圧籠、華b
黒色土器 A	磁片
瓦 類	椀c
越州系系青磁	碗: -2 1
石 製 品	滑石製石鍋A群、滑石製石鍋加工品
滑惠質土器	こね鉢 東播系、こね鉢 産地不明
白 磁	碗: 4、 1
土 製 品	焼土塊

S-11 暗褐色土

清 惠 器	环c、椀
土 師 器	丸底環a、椀c2 环a ヘラ、油煙、椀a 椀 雲母含有
黒色土器 A	供膳具
黒色土器 B	供膳具
瓦 類	磁片 滲入
瓦 類	丸瓦 文字 -6種
土師質土器	鉢
緑 磁 器	椀 防兵 1、磁片 京都 1

S-11 灰白色

土 師 器	环a ヘラ、椀c
黒色土器 B	椀c

S-11 茶色砂

土 師 器	椀c 供膳具 ヘラ、椀b
-------	--------------

S-11 黄灰色土

土 師 器	供膳具 ヘラ、煮炊具
-------	------------

S-11 灰白色

土 師 器	供膳具 ヘラ
瓦 類	磁片 樋目叩

S-12 暗褐色土

土 師 器	环d
瓦 類	椀

S-13 明灰色土

土 師 器	环d
瓦 類	平瓦 樋目叩

S-14 黒褐色土

土 師 器	供膳具、煮炊具
-------	---------

S-15 黒灰色砂

清 惠 器	椀
土 師 器	椀c 丸底环a、环a ヘラ、イト、小皿 a1 イト、小皿 a b イト
黒色土器 B	椀c
瓦 類	椀c 椀 横溝
瓦 類	磁片
石 製 品	磁石
土師質土器	鉢
滑惠質土器	こね鉢 東播系、こね鉢
碗:	5、-1a 1、-1 3、-2 1、-4b 1、-4、-1 3 1、-3
白 磁	碗: 1、 2
特色:	雲系 1、磁片 華南系 6
中国陶器	磁: 1
その他	理化木

S-15 灰白色

清 惠 器	椀
土 師 器	丸底环、环a ヘラ、イト、小皿 a1 イト
瓦 類	椀c
同安原系青磁	碗: -1b 1
青磁 未分類	初期瀬原・同安原系青磁0種類 1
瓦 類	瓦玉
滑惠質土器	こね鉢 東播系
緑 磁 器	椀 近江 1
白 磁	碗: 1、-1 1、-2、-1 2、-1、-1 3、-4 2、-2b 1、-4b 1
青 白 磁	壺 1
金 属 製 品	鉄釘

S-15 黒色土

清 惠 器	椀
土 師 器	椀c2 环a ヘラ、イト、小皿 a1 イト、穿孔
瓦 類	椀c
越州系系青磁	碗: 1
青磁 未分類	磁片 1
瓦 類	丸瓦 樋子叩、瓦玉
石 製 品	磁石、滑石製石鍋、滑石製鉢
土師質土器	鉢
滑惠質土器	こね鉢 東播系
白 磁	碗: 4、-1 4、-1、-4 1、-4b 2、-1、-1a 1、-1b 2、-1、磁片 8
中国陶器	他器種; 磁片B群 1

S-16 黒褐色土

清 惠 器	椀
土 師 器	供膳具
滑惠質土器	こね鉢 東播系

S-17 黒褐色土

清 惠 器	椀、椀
土 師 器	环a イト、皿a 小皿 a1 イト、ミニチュア土器 手摺椀
瓦 類	椀c
同安原系青磁	碗: -1b 5、磁片 1
青磁 未分類	磁片 1
瓦 類	丸瓦 樋子叩
滑惠質土器	こね鉢 東播系
碗:	1、-1 1、-2b 1、-4b 1、磁片 華南系 2、磁片 広東系 1、磁片 1
白 磁	碗: -1 1
青 白 磁	磁片 1
中国陶器	他器種; 磁片B群 1、磁片C群 1、磁片 1
土 製 品	炒麦

S-19 暗褐色土

清 惠 器	磁片
瓦 類	椀

S-20 茶色土

土 師 器	供膳具
黒色土器 A	供膳具

S-21 暗褐色土

清 惠 器	磁片
土 師 器	供膳具
瓦 類	椀

大宰府条坊跡第 252次調査 出土遺物一覧表 3

S - 22 赤色土

須恵器	蓋3 壺
土師器	供膳具、東炊具

S - 23 赤色土

須恵器	破片
土師器	環c、蓋a

S - 24 暗褐色土

須恵器	蓋3
土師器	柄c 環、小皿a1 イト、雲母含有、東炊具
瓦	破片
白磁	瓶; 1

S - 25 暗褐色土

須恵器	蓋3 壺
土師器	柄c 環a イト、小皿a1 イト、小皿b 高台、壺
東色土器A	柄c
瓦	柄
藤原系青磁	柄: 1、-4 3、-b 7、2 他器種; 環 -1 1、破片 7
阿波系青磁	柄: -1b 1、2、破片 1 皿; 破片 2
瓦	破片
石製品	砥石、滑石製石網、滑石製用途不明物
須恵質土器	こね鉢 東播系、儀、儀 東播系
瓦質土器	こね鉢、甕蓋 舞入
国産陶器	儀、東播系、盛埴系前 柄: 1、-1 1、2 皿: 1、2
白磁	壺物; 破片 藤原系 7、破片 広東系 1、破片 未分類 1 瓶: 1
中国陶器	他器種; 破片A・2群 2、破片B群 3、破片C群 1
須恵質輸入	朝鮮系陶器7器 1
純真	唐末遺貨

S - 25 東色土

須恵器	壺
土師器	環a イト
瓦	柄
藤原系青磁	柄: -1 1、-2 1、-b 1
瓦	軒丸瓦瓦当、破片
国産陶器	破片
白磁	瓶; 破片 1 皿: 1

S - 25 褐色土

須恵器	蓋3 壺
土師器	環a イト、小皿a1 イト、小皿a b イト、儀a
瓦	柄c 舞入、角閃石含有
藤原系青磁	柄: 1、-b 3 他器種; 環 1
輸入陶磁器	破片 1 未分類
土師質土器	網
須恵質土器	こね鉢 東播系
国産陶器	儀
白磁	瓶; -4 1、破片 未分類 1、破片 1 皿: -1 2
中国陶器	瓶; 破片 2 他器種; 瓶 -1 1

S - 25 灰色土

須恵器	供膳具、壺
土師器	環a イト、小皿a1 イト
藤原系青磁	柄: -b 1、1
阿波系青磁	柄: -1c 1
須恵質土器	こね鉢 東播系
白磁	皿: -1 1
中国陶器	儀; 破片 1

S - 25 暗褐色土

須恵器	供膳具
土師器	柄c 環a イト、小皿a イト
瓦	柄c
阿波系青磁	柄: -1b 1
瓦	破片
須恵質土器	こね鉢 東播系

白磁	瓶; 破片 1
----	---------

S - 26 暗褐色土

土師器	供膳具、東炊具
-----	---------

S - 27 暗褐色土

土師器	小皿a ヘラ、東炊具
東色土器B	破片
瓦	破片

S - 28 暗褐色土

須恵器	環c、壺
土師器	柄c 環a イト、東炊具
製塩土器	焼塩釜
阿波系青磁	皿; 破片 1
白磁	壺物; 破片 1
土製品	炒釜

S - 29 暗褐色土

須恵器	供膳具、壺
土師器	柄c 丸底環、蓋3 東炊具 角閃石含有
土製品	硝土塊

S - 30 灰色土

須恵器	皿、壺
土師器	環a イト
瓦	柄
藤原系青磁	壺; 系 1
藤原系青磁	柄; 破片 1
阿波系青磁	柄; -1b 1
瓦	破片
石製品	砥石
須恵質土器	こね鉢 東播系
瓦胎陶器	壺
中国陶器	他器種; 破片C群 1
土製品	硝土塊

S - 32 暗褐色土

須恵器	供膳具、壺
土師器	柄c 小皿a1
瓦	破片
阿波系青磁	柄; 破片 未分類 1
白磁	瓶; -4 1
土製品	炒釜

S - 32 赤色土

須恵器	壺
土師器	柄c 環a イト、小皿a1 イト、小皿a b イト
藤原系青磁	柄; -b 2
阿波系青磁	柄; -1 a 1
石製品	滑石製石網
須恵質土器	こね鉢 東播系、儀 東播系
国産陶器	壺
白磁	瓶; 破片 未分類 1 壺物; 破片 1 壺; 2
中国陶器	壺; 破片 1 他器種; 破片C群 5
土製品	炒釜

S - 33 暗褐色土

土師器	柄c 東炊具
瓦	平瓦 格子印
石製品	軽石
白磁	瓶; 1
土製品	硝土塊

S - 34 赤色土

土師器	環a イト、小皿a1 イト
藤原系青磁	柄; -b 4、破片 3
他器種; 環 -1 1、破片 1	
阿波系青磁	皿; -2 b 1
瓦	瓦五
須恵質土器	こね鉢 東播系
瓦質土器	こね鉢
瀬戸窯	壺
白磁	瓶; 1、1、2、破片 藤原系 1

大宰府奈坊跡第 252次調査 出土遺物一覧表 4

	皿; 1、-1 1 壺他; 破片 華南系 8
青白磁	瓶 1
中国陶器	壺; 耳蓋 -2 1、耳蓋 1 瓶; 破片 1 他器種; 破片A・群 1、破片B群 1
須恵系 輸入	朝鮮系無釉陶器破片 2
金属製品	銅製品
土製品	焼土塊
S-34 黒色土	
土器 器	供膳具
S-35 緑灰色土	
須恵系 器	
土器 器	供膳具
瓦 器	破片
土製品	焼土塊
S-35 緑褐色土	
須恵系 器	
土器 器	供膳具
瓦 器	破片
白磁	瓶; 1 壺; 破片 1
須恵系 輸入	朝鮮系無釉陶器? 壺 1
土製品	焼土塊
S-36 緑褐色土	
須恵系 器	破片
土器 器	丸底椀a、椀c、丸底杯a、杯aヘラ、小皿a1ヘラ、
黒色土器A	椀
黒色土器B	椀
瓦 器	破片 流入
瓦 器	瓦玉
緑釉陶器	破片 近江 1、破片 防長 1
白磁	瓶; 皿 5 1
白磁	壺他; 破片 1
土製品	焼土塊
S-37 灰色土	
須恵系 器	
土器 器	杯a イト
黒色土器A	破片
瓦 器	破片
瓦質土器	罎
白磁	瓶; 破片 華南系 1
土製品	皿; -1c 1
土製品	焼土塊
S-38 黒色土	
須恵系 器	
土器 器	杯a イト、小皿a1 イト
瓦 器	瓶
藤原系青磁	瓶; -b 1、系 未分類 1
阿波系青磁	瓶; -1b 1、破片 1
阿波系青磁	皿; 破片 1
国産陶器 灰	
白磁	皿; -2 1
中国陶器	他器種; 破片 1
S-39 緑褐色土	
土器 器	椀
瓦 器	破片
S-40 灰色砂	
須恵系 器	破片
土器 器	杯a イト、小皿a1 イト、小皿a b イト、小皿b
瓦 器	破片
藤原系青磁	瓶; 系 未分類 1、-a 1、-b 4、破片 3
青磁 未分類	壺 1
石製品	滑石製石罎
土器質土器	罎
須恵系土器	こね鉢 東播系、藤原系
瓦質土器	こね鉢
国産陶器	破片
白磁	瓶; 1、-4 -1-3 1、1、1、破片 華南系 1

	皿; 1、-1 2、破片 1
青白磁	壺 1
中国陶器	瓶; 破片 1 他器種; 破片B群 2
金属製品	鉄釘
S-40 灰色粘土	
土器 器	杯a イト
S-41 緑灰色土	
須恵系 器	破片
土器 器	杯aヘラ
阿波系青磁	他器種; 破片 1
S-42 黒褐色土	
須恵系 器	
土器 器	杯a イト、皿c
藤原系青磁	瓶; -2a 1、-b 1
白磁	瓶; -1 -2 1
白磁	皿; 1
中国陶器	壺; 1
S-44 黒褐色土	
土器 器	杯a 皿c
須恵系土器	こね鉢 東播系
S-45 灰色土	
須恵系 器	
土器 器	杯a イト、小皿a1 イト、小皿b
瓦 器	破片
藤原系青磁	瓶; -b 2、破片 未分類 1、破片 2 他器種; 杯 -2 1、杯 -5a 1
阿波系青磁	皿; -1b 1
瓦 器	丸瓦破片 2
須恵系土器	こね鉢 東播系、こね鉢
瓦質土器	炊飯 罎
白磁	瓶; -1 -2 1、破片 未分類 1、破片 華南系 1
白磁	皿; -2 a 1
青白磁	合子蓋 1、破片 1
壺	1
中国陶器	他器種; 壺 1、破片B群 1
金属製品	鉄釘
S-46 緑褐色土	
須恵系 器	罎
土器 器	供膳具、煮炊具
白磁	皿; -2 a 1
S-47 緑褐色土	
須恵系 器	杯a
土器 器	小皿a2
白磁	瓶; 破片 華南系 1
金属製品	鉄釘
S-48 緑褐色土	
土器 器	供膳具、煮炊具
S-49 緑灰色土	
土器 器	瓶c
白磁	壺他; 破片 1
S-50 灰色土	
土器 器	小皿a1ヘラ、煮炊具
白磁	皿; -1 b 1
S-51 黒褐色土	
須恵系 器	
土器 器	杯a イト、小皿a1 イト
藤原系青磁	瓶; -2 a 1、-3 1、-b 3 破片 4 皿; -2 b 1
高麗青磁	破片; 破片 1
瓦 器	丸瓦、瓦玉
石製品	滑石製石罎
瓶	瓶; -4 -1-3 1、1、破片 1
白磁	皿; -2 2
中国陶器	他器種; 破片B群 1
土製品	炒飯
S-52 緑褐色土	
土器 器	瓶c、丸底杯、煮炊具

大宰府条坊跡第 252次調査 出土遺物一覧表 5

S-52 黒色土	土 師 器 埴c 埴
S-53 緑褐色土	土 師 器 供膳具、儀a
S-54 緑褐色土	土 師 器 小皿a イト 中国 陶 器 壺; 破片B群 1
S-55 緑灰色土	土 師 器 埴a イト、煮炊具 瓦 器 埴c、小皿 瓦 類 埴片 石 製 品 滑石製石鏡A群 滑石質土器 ごね鉢 白 磁 埴; 破片 華南系 1
S-56 緑褐色土	須 恵 器 埴地 土 師 器 埴a イト、小皿a イト、儀a 在池 瓦 器 埴 瓦 類 平瓦 樋目印 白 磁 埴; 破片 1
S-57 緑褐色土	瓦 器 埴c 阿波笠系青磁 他器種; 破片 1
S-58 緑褐色土	土 師 器 埴a 儀 白 磁 皿; -1 1
S-59 緑灰色土	須 恵 器 儀 土 師 器 供膳具、煮炊具
S-61 褐色土	土 師 器 埴d 供膳具 器一
S-63 褐色土	土 師 器 埴a ヘラ 瓦 器 埴 瓦 類 丸瓦
S-64 緑褐色土	須 恵 器 埴、壺 土 師 器 埴c 瓦 器 埴 青 白 磁 破片 1
S-66 緑褐色土	土 師 器 埴、煮炊具 金 属 製 品 銅環
S-68 緑褐色土	須 恵 器 供膳具 土 師 器 供膳具
S-75 茶灰色土	須 恵 器 供膳具、儀 土 師 器 埴、供膳具、儀a
S-76 赤色土	須 恵 器 埴a 土 師 器 埴a 壺; 儀b
S-77 赤色土	須 恵 器 儀 土 師 器 埴d 皿、供膳具 縄 文 土 器 破片 角閃石含有
S-78 赤色土	土 師 器 埴
S-80 茶灰色土	須 恵 器 埴 土 師 器 供膳具、儀
S-83 赤色土	土 師 器 供膳具、儀a 瓦 類 破片 樋目印
S-84 赤色土	土 師 器 供膳具、儀a 壺母含有
S-85 赤褐色土	須 恵 器 儀 土 師 器 煮炊具 石 製 品 銅片 黒曜石

S-86 赤色土	須 恵 器 壺 土 師 器 供膳具、儀a
S-89 赤色土	須 恵 器 破片 土 師 器 破片
S-91 赤色土	須 恵 器 壺3 土 師 器 埴、壺 黒色土器 A 鉄鉢形土器
S-92 赤色土	須 恵 器 壺 土 師 器 埴a 壺a 製 埴 土 器 焼埴壺
S-93 赤色土	土 師 器 埴a イト、溜入か、小皿、儀a 黒色土器 A 破片
S-94 赤色土	須 恵 器 供膳具 土 師 器 埴、小皿a1 ヘラ、煮炊具
S-95 赤色土	須 恵 器 埴c、儀 土 師 器 埴、煮炊具 角閃石含有 黒色土器 A 破片
S-96 赤色土	土 師 器 供膳具、煮炊具 在池
S-97 赤色土	須 恵 器 儀 土 師 器 煮炊具
S-99 赤色土	須 恵 器 破片 土 師 器 壺
S-100 赤色土	須 恵 器 壺 土 師 器 丸底埴a 埴a ヘラ
S-101 赤色土	土 師 器 埴d 供膳具、煮炊具 在池
S-102 赤色土	土 師 器 埴d 煮炊具
S-103 赤色土	土 師 器 破片
灰色粘土	須 恵 器 埴a 埴c、壺、壺 古墳時代、儀 土 師 器 埴c 埴a イト、埴c、小皿a1 イト、小皿b 儀a 製 埴 土 器 焼埴壺 瓦 類 埴c 阿波笠系青磁 壺: 5、-2.2、-b 3、-2.1、破片 1 他器種: 埴 -1 1 須 恵 器 埴: 1、-1a 1、-1b 1、未分類 1 瓦 類 平瓦 樋目印、丸瓦 石 製 品 滑石製石鏡、磨石 滑石質土器 ごね鉢 東博系 灰 緑 陶 器 壺 白 磁 皿: 4、-1a 3、1、-2b 1、-4、-1、3 3、1、2、2 1、-3 1、-4 1、1、1、破片 華南系 8 皿: -1a 1、-2b 1、1、-1a 1、1 壺地: 破片 華南系 1 中国 陶 器 他器種: 小皿 1、破片A群 3、破片B群 4、破片C群 2 金 属 製 品 鉄釘 土 製 品 カマド 赤色土 須 恵 器 埴c、皿 壺 東博系、壺3 壺 土 師 器 埴c 溜入、埴a ヘラ、埴d 埴 手持ち成形、皿a 小皿a1 不、溜入、儀a 在池、角閃石、白雲母含有、儀b 製 埴 土 器 焼埴壺 類、埴 黒色土器 A 破片 瓦 類 平瓦 樋目印 石 製 品 滑石製小形磨石 溜入、石鏡 サカイト 滑石質土器 ごね鉢 東博系 中国 陶 器 他器種: 破片A群 溜入か? 1

圖 版



大宰府条坊跡第 25 次調査第 面全景 (写真下が北)



大宰府条坊跡第 25 次調査第 面全景 (写真下が北)

図版 2



252SE00全景（東から）



252SK01全景（北から）



252SK04遺物出土状態（南から）

報告書抄録

ふりがな	だざいふじょうぼうあと 34									
書名	大宰府条坊跡 34									
副書名	第 252次調査									
シリーズ名	太宰府市の文化財									
シリーズ番号	第 9巻									
編著者	豊川達郎、中島恒次郎									
編集機関	太宰府市教育委員会・玉川文化財研究所									
所在地	太宰府市教育委員会 〒 818 0198 福岡県太宰府市観世音寺 1- 1- 1		TEL 092- 921- 2121		玉川文化財研究所 〒 221 0822 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川 1- 8- 9			TEL 045- 321- 5565		
発行年月日	平成 19 2007 年 6 月 2日									
ふりがな	条坊	ふりがな	コード		座標		調査期間		調査面積 ㎡	調査原因
			市町村	通跡番号	X	Y	開始	終了		
所収通跡名	【磯山堀条坊跡】									
大宰府条坊跡 第 252次	左郭 6条 10坊	大宰府市 五条之丁目 2475 23 2475 24	402214	210044 252	56495 0	43790 0	20051107	20060202	240 6	共同住宅建設
所収通跡名	通跡種別	時代	主要遺構		主要遺物		特記事項			
大宰府条坊跡 第 252次	集落	奈良時代一室町時代前期	井戸、溝、土坑、小穴群		須恵器、土師器、中国産陶磁器、兼重系須恵器		奈良時代一室町時代前期の集落跡を発見			

太宰府市の文化財 第95集

大宰府条坊跡 34 －第252次調査－

平成19 (2007) 年 6 月

発 行 太宰府市教育委員会
〒818-0198 福岡県太宰府市観世音寺 1- 1- 1

編集協力 玉川文化財研究所
〒221-0822 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川 1- 8- 9

印 刷 (有) 平電子印刷所
〒970-8024 福島県いわき市平北白土字西ノ内13番地